

玉作1遺跡

第1～3次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第170集



2009

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



たま つくり

玉作 1 遺跡

第1～3次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第170集

平成21年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した玉作1遺跡の調査成果をまとめたものです。

玉作1遺跡は、鶴岡市街地の南西部に位置します。周辺は肥沃な田園地帯が広がり、庄内地方でよく見受けられる散村集落が点在しています。

この地域は、昭和62年度から実施された県営ほ場整備事業、国道7号のバイパス改築工事や東北横断自動車道の建設に伴って、助作遺跡をはじめ、矢馳A遺跡、矢馳B遺跡、清水新田遺跡、山田遺跡など、山形県教育委員会や鶴岡市教育委員会によって発掘調査がなされ、古墳時代から奈良・平安時代の集落が明らかになり、多くの成果が得られています。

この度、日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡間)の建設事業に伴い、玉作1遺跡の緊急発掘調査を実施しました。日本海沿岸東北自動車道は、日本海沿岸地域の交通の主軸となることが期待されています。調査では、古墳時代と平安時代の集落跡が発見され、掘立柱建物、井戸、溝、中小河川などが検出されました。特に、碧玉製管玉の加工前の未成品が多数出土したことは、庄内地方はもとより県内でも注目される成果といえます。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を保護するとともに、祖先の歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙や普及、学術研究や教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口常夫

凡　例

- 1 本書は、日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設に係る「玉作1遺跡」の第1次・第2次・第3次発掘調査報告書である。
- 2 既刊の年報、発掘調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所の委託により、財团法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は佐藤正俊（IからIV章）と深澤篤（II章2）が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、佐東秀行、安部実、長橋至、伊藤邦弘、黒坂雅人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標地は、平面直角座標系X系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S T…竪穴住居跡	S B…掘立柱建物跡	S K…土 坑	S E…井戸跡
S D…溝跡	S G…河川跡	S P…ピット	S X…性格不明遺構
R P…登録土器	R Q…登録石製品	R W…登録木製品	
- 7 遺物写真図版中の番号は遺物図面図版の番号に対応する。また、写真図版にのみ掲載された遺物には、出土したグリッド番号または遺構番号を付した。
- 8 遺構・遺物実測図の縮尺は各図に示した。土器実測図の断面は、白抜きが土師器、△記号が赤焼土器、黒ベタ塗りは須恵器を表す。また、碧玉未成品の網点は自然面を表す。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載は、1999年度版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版基準土色帖」によった。
- 10 発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方々から御協力と御助言をいただいた（敬称略）。
島根県立古代出雲歴史資料館 深田浩　　島根県教育庁理藏文化財調査センター 米田克彦

調　査　要　項

遺　跡　名	玉作1遺跡
遺　跡　番　号	平成16年度登録
所　在　地	山形県鶴岡市大字中清水字玉作
調査委託者	平成16年度 東日本高速道路株式会社東北支社 平成17～20年度 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査受託者	財團法人山形県埋蔵文化財センター
受　託　期　間	第1次調査 平成17年4月1日～平成18年3月31日 第2次調査 平成18年4月1日～平成19年3月31日 第3次調査 平成19年4月1日～平成20年3月31日 報告書作成 平成20年4月1日～平成21年3月31日
現　地　調　査	第1次調査 平成17年7月11日～平成17年9月30日

	第2次調査	平成18年7月3日～平成18年8月31日				
	第3次調査	平成19年5月9日～平成19年7月11日				
調査担当者	平成17年度	調査第三課長	洪谷孝雄	(調査主任)		
		調査員	洪谷純子			
	平成18年度	調査第三課長	洪谷孝雄			
		調査研究主幹	佐藤正俊	(調査主任)		
		調査員	深澤篤			
	平成19年度	調査課長	長橋至			
		調査研究主幹	佐藤正俊	(調査主任)		
		調査員	深澤篤			
調査指導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室	(平成17年度)				
	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室	(平成18・19年度)				
	山形県教育庁文化遺産課	(平成20年度)				
調査協力	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所					
	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所					
	鶴岡市教育委員会					
	山形県教育庁庄内教育事務所					
委託業務	基準点測量	有限会社石井測量設計事務所	(第1次調査)			
		株式会社測量榎本設計事務所	(第3次調査)			
	地形・造構測量	株式会社セビアス	(第1次調査)			
		株式会社石川測量事務所	(第2・3次調査)			
	理化学分析	株式会社パレオ・ラボAMS年代測定グループ	(柱材)			
		有限会社遺物材料研究所	(碧玉玉製品・鉄石英)			
発掘作業員	秋山大	阿部重巳	五十嵐弘安	五十嵐優	池田保	伊藤一夫
	伊藤勝子	伊藤重雄	伊藤清太郎	伊藤敏恵	伊藤寅女	伊藤久志
	伊藤兵一	伊藤弘子	伊藤雅子	遠藤豊	太田早智子	太田満
	大瀧慎吾	大瀧元子	加藤民雄	後藤文司	小林綾井	小林賢二
	小林恒弥	小林与一郎	小松京子	小松は羽	今野篤次	斎藤四郎
	斎藤武儀	斎藤律子	佐藤一夫	佐藤勝男	佐藤賢治	佐藤幸子
	佐藤新一	佐藤新左エ門	佐藤ミヤエ	佐藤ヤエノ	佐藤弥太郎	佐藤庸子
	庄司瞳	瀬尾茂	瀬尾敏子	田澤福井	田中富治	中鉢弥一郎
	土岐美佐子	成田七郎	野尻松雄	野尻優喜	長谷川恵美子	長谷川眞一
	長谷川久子	本間政男	本吉長一郎	矢口悦子	若公四郎	(五十音順)
整理作業員	石井恵子	石沢みどり	貝羽美津子	佐藤由美子	土谷玲子	山野辺富美恵
	渡辺由美子	(五十音順)				

目 次

I 調査の経緯	1
1 調査の経過.....	1
2 調査の概要.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	2
1 地理的環境.....	2
2 歴史的環境.....	2
III 遺構と遺物.....	5
1 遺構.....	5
2 遺物.....	8
IV 調査のまとめ.....	9
報告書抄録.....	卷末

表

表1 古墳時代遺物観察表.....	28	表4 木製品観察表.....	32
表2 石製品・土製品観察表.....	30	表5 碧玉未成品観察表.....	32
表3 平安時代・中世・近世遺物観察表.....	31		

図 版

第1図 調査区概要図.....	1	第12図 古墳時代土器実測図1	18
第2図 地形分類図.....	3	第13図 古墳時代土器実測図2	19
第3図 遺跡位置図.....	4	第14図 古墳時代土器実測図3	20
第4図 調査区全体図.....	10	第15図 古墳時代土器実測図4	21
第5図 遺構配置図.....	11	第16図 古墳時代土器実測図5	22
第6図 S B 1・2 捩立柱建物跡実測図.....	12	第17図 古墳時代土器実測図6	23
第7図 S B 2撩立柱建物跡・S K 12・13・14・15・16土坑実測図.....	13	第18図 古墳・平安時代土器・土製品・石製品実測図.....	24
第8図 S E 74井戸跡・S D 75溝跡実測図.....	14	第19図 平安時代・中世・近世土器実測図.....	25
第9図 S G 56河川跡実測図（1）	15	第20図 木製品実測図.....	26
第10図 S G 56河川跡実測図（2）	16	第21図 碧玉未成品実測図.....	27
第11図 S D 51溝跡・S X 53性格不明遺構実測図.....	17		

写真図版

- | | |
|--|--|
| 写真図版 1 遺跡調査区全景 第3次調査区 | 写真図版18 S X 2性格不明遺構南北・東西土層断面 |
| 写真図版 2 第1次調査区 S B 1・2 挖立柱建物跡 | 写真図版19 S X 57・S X 58性格不明遺構完掘状況 |
| 写真図版 3 第2次調査区 | 写真図版20 S X 53性格不明遺構検出状況・完掘状況 |
| 写真図版 4 第3次調査区遺構検出状況 | 写真図版21 S X 53性格不明遺構土層断面 |
| 写真図版 5 S B 1・2 挖立柱建物跡 | 写真図版22 S X 53性格不明遺構遺物出土状況 S X 55性格不明遺構土層断面 |
| 写真図版 6 柱穴群検出状況 S P 106・113・131・140・142・143・
152・154柱穴土層断面 | 写真図版23 古墳時代の土師器 |
| 写真図版 7 S K 12・13・14・15土坑完掘状況・土層断面 | 写真図版24 碧玉玉未成品・調片 鉄石英調片 |
| 写真図版 8 S K 16土坑・S E 74井戸跡完掘状況・土層断面 | 写真図版25 土師器壊・壺 |
| 写真図版 9 S D 75溝跡完掘状況・遺物出土状況 | 写真図版26 土師器高壺（1） |
| 写真図版10 柱穴群完掘状況 S P 83・87・91・99
柱穴土層断面 | 写真図版27 土師器高壺（2） |
| 写真図版11 S G 56河川跡完掘状況・土層断面西側 | 写真図版28 土師器高壺・壺・壺 |
| 写真図版12 S G 56河川跡Aトレンチ・Bトレンチ土層断面 | 写真図版29 土師器壊 |
| 写真図版13 S G 56河川跡Cトレンチ・Dトレンチ土層断面 | 写真図版30 土師器高壺・壺（1） |
| 写真図版14 S G 56河川跡Eトレンチ・Gトレンチ土層断面 | 写真図版31 土師器高壺・壺（2） |
| 写真図版15 S G 71・72・73河川跡検出状況・S G 73
河川跡土層断面 | 写真図版32 土師器台・高壺・壺・須恵器壺・石製品・土製品 |
| 写真図版16 S G 71・72河川跡完掘状況 | 写真図版33 須恵器壊・壺・壺 |
| 写真図版17 S X 1・2・57・58性格不明遺構全景 S X 1・2性
格不明遺構完掘状況 | 写真図版35 陶器・木製品 |

I 調査の経緯

1 調査の経過

玉作1遺跡は、日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設に先立ち、山形県教育委員会が平成16年度に行った分布調査において発見され、万治ヶ沢遺跡、木の下館跡、行司免遺跡、玉作2遺跡、岩崎遺跡、南田遺跡とともに新規登録された。

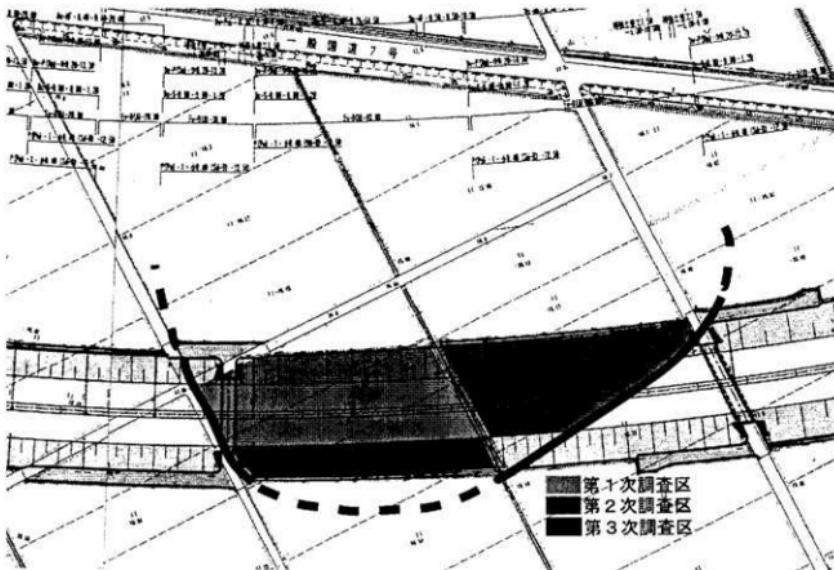
日本海沿岸東北自動車道建設に際しては、山形県教育委員会が平成14年から平成17年にかけて試掘調査を実施してきたが、その結果をもとに、当時の事業主体である東日本高速道路株式会社との間で、これらの遺跡の取り扱いについて協議がなされた。その中で玉作1遺跡は古墳時代から平安時代にかけての集落跡と判明し、財團法人山形県埋蔵文化財センターが事業に係る区域について記録保存のための緊急発掘調査を実施する事となったものである。

2 調査の概要

発掘調査は、3カ年に亘って行われた。第1次調査は、道路本体の南西半部分3,680m²について、平成17年7月11日から9月30日までの50日間実施した。第2次調査は同じく北東半部分2,786m²について平成18年7月3日から8月31日までの38日間実施し、第3次調査は第1次調査区の南東に隣接する工事用道路部分1,000m²について平成19年5月9から7月11日までの46日間実施した。調査面積は合わせて7,466m²となる。

調査グリッドは、国土座標平面直角座標系を基に設定し、X軸を東西の算用数字で、Y軸を南北のアルファベットで呼称し、1単位を10m×10mとした。

発掘調査は、重機械を用いて表土を除去し、その後、面整理作業、遺構検出、遺構精査の順に進め、並行して写真撮影や図面などによる記録を行った。



第1図 調査区概要図 (S = 1 : 2,000)

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

玉作1遺跡は、山形県鶴岡市大字中清水字玉作に所在する。JR羽越本線の羽前水沢駅から東へ約4kmに位置し、地目は水田で、一部は転作田となり畠地として利用されている(第3図)。

鶴岡市は、山形県の北西部、庄内地方の南部に位置し、西に日本海を臨み、東は出羽丘陵により内陸地方と隔てられ、南は新潟県と境を接している。

庄内地方は、最上川や赤川などによって扇状地が形成され、東西40km・南北100kmの肥沃な庄内平野が広がり、江戸時代から今日に至るまで日本有数の穀倉地帯である。遺跡の周辺は、赤川や大山川によって運ばれた栄養の豊富な砂土壤が堆積し、水田と共にこの地域特産の「白山だだちゃ豆」の畑が広がっている。

山形県の気候は、地域的にみると庄内型と内陸型とに分けられる。この区分は日本海の影響をどのように受けたかに関係する。この地域は、日本海の影響を受ける海洋性の特徴が顕著な庄内型の気候であり、年間の平均気温でみれば冬は温暖であり、降水量で比較すると年間を通じて日数・総量ともに多く、湿度においては夏多湿で、風が強く内陸型とは顕著な違いを示している。

地形は、遺跡の西方に日本海から延びる礫浜背後の高館山をはじめとする丘陵地帯が南北に連なり、一方、東には山岳信仰の靈地金峰山をはじめとして、低いながらもかなり険しい複雑な山容をみせている。さらに、遺跡の南方では大山川が南から北へと流路を変えながら流れ、この地域一帯がその氾濫原となり、扇状地的な様相を呈している。この氾濫原の微高地には、本遺跡をはじめとして、行司免遺跡・興屋川原遺跡・玉作2遺跡・岩崎遺跡・南田遺跡などの遺跡が確認されている。大山川と金峰山から発する湯尻川の合流地帯の微高地には、矢馳A遺跡や山田遺跡など古墳時代から奈良・平安時代の大規模な集落跡が発見されている。現在見られる遺跡周辺の地形は、古くから行われてきた開田や農業の機械化の導入による土地改良によって整備された場となっている。

2 歴史的環境

鶴岡市は、平成17年10月1日に從来の鶴岡市・藤島町・羽黒町・橋引町・温海町・朝日村の1市4町1村が合併したことにより、行政区画が大きく変化し、県内最大の面積を持つ自治体となった。それに伴い、埋蔵文化財包蔵地も合わせて607箇所に及び、県内有数の遺跡数となっている。

時代別の内訳は、縄文時代が最も多く284箇所で47%を占め、次いで中世の館跡などが171箇所で28%、平安時代が113箇所、旧石器時代が14箇所である。弥生時代および古墳時代から奈良時代にかけての遺跡は全体の約3%と少ないのが特徴である。

玉作1遺跡の周辺地域は、縄文時代や弥生時代の遺跡は確認されていない。金峰山から延びる険しい丘陵地帯には、その地形を利用したと見られる木の下館をはじめとして、谷地館・柴館・上清水館など、現在でも空堀や土塁などが見られる出張坂城が立地する。

9世紀から10世紀の平安時代では岩崎遺跡と興屋川原遺跡から、古代出羽郡の太田郷に関連する造構や遺物が検出されており、特に興屋川原遺跡では、大型の掘立柱建物跡が2棟ずつ、南北と東西に整然と並んで確認された。岩崎遺跡からは円面鏡が出土している。

行司免遺跡では、平安時代前半期の木棺墓や火葬に関わる施設が検出されたほか、溝跡などから十和田a火山灰が検出された。南田遺跡からは、庄内地方ではこれまで発見例が少なかった8世紀後半の須恵器をはじめとした良好な資料が得られている。

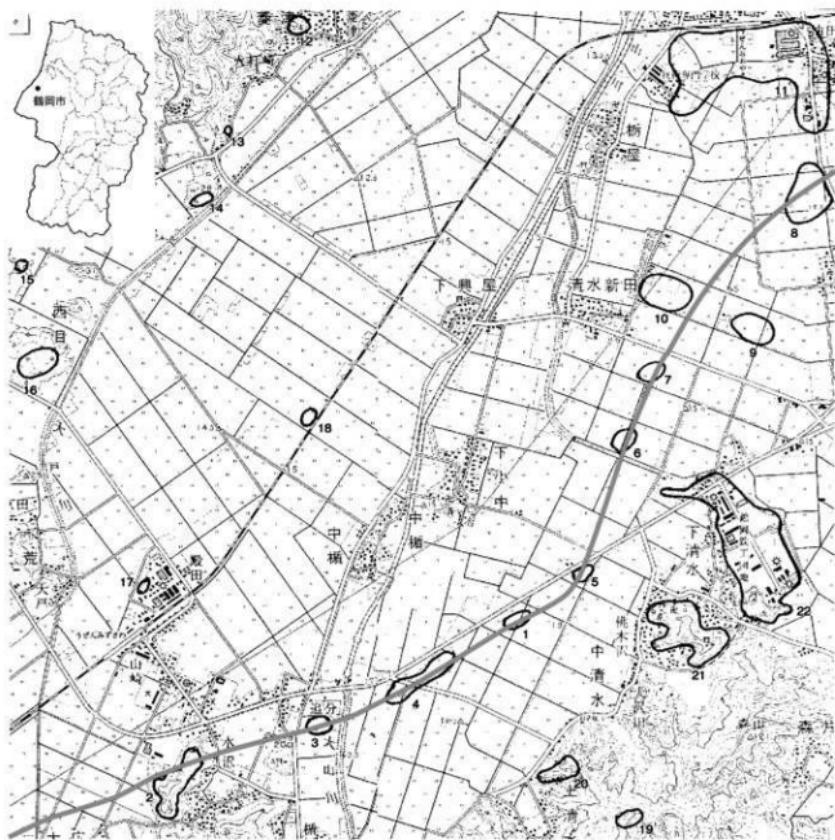
庄内地方では、古墳時代の遺跡が確認されている例が少ないとから、情報も断片的な知見にとどまっていたが、最近の県営は場整備事業や国道7号建設に伴い、5世紀後半から6世紀にかけての集落跡と確認された矢馳A遺跡、矢馳B遺跡、助作遺跡、清水新田遺跡などの発掘調査が相次ぎしたことにより、この地は、古墳時代遺跡が濃密度で分布する地域であることが判明した。また、このことにより、日本海側では北限とされる菱津古墳との関連も指摘されるところである。

※本図は『土地分類基本調査 鶴岡』
 (山形県企画調整部土地対策課1979)、
 同じく『三浦・湯浅』の「地形分類図」
 を合成し、加筆したものである。



第2図 地形分類図

II 遺跡の位置と環境



*日本海沿岸自動車道建設予定地

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	玉作1集落跡	古墳・平安		12	斐津館	城館跡	中世
2	木の下館	城館跡	室町・戦国	13	斐津古墳	古墳	古墳
3	行司免墓跡	奈良・平安		14	火打崎B	包藏地	奈良・平安
4	興原川原	集落跡	古墳・奈良・平安	15	西日京塚	京塚	中世
5	玉作2集落跡	奈良・平安		16	山口B	包藏地	古墳・奈良
6	岩崎	集落跡	古墳・奈良・平安	17	水沢	包藏地	平安
7	南田	集落跡	古墳・奈良・平安	18	谷地館	城館跡	中世
8	矢跡A	集落跡	古墳・奈良・平安	19	柴館	城館跡	中世
9	矢跡B	包藏地	古墳	20	上清水館	城館跡	中世
10	清水新田	包藏地	古墳・奈良・平安	21	奥館	城館跡	中世
11	山田	集落跡	古墳・奈良・平安・中～近世	22	出張坂城	城館跡	中世

*1～8：日本海沿岸東北自動車道関連遺跡

第3図 遺跡位置図(国土地理院発行2万5千分の1地図「三瀬」・「鶴岡」使用)

III 遺構と遺物

1 遺構

遺構の概要（第5図）

遺跡は、昭和50年代の後半に県営は場整備事業によつて多くが削平されている。特に、第1次調査区の北側の中央から西側にかけてと、第2次調査区全域において顕著である。中でも第2次調査区の北西側では、重機械の跡がみられ地山層まで深く削られ、遺構を検出することができなかつた。

遺構は、第1次調査区では、北東側から南側で掘立柱建物跡2棟・土坑5基・性格不明遺構5基のはか河川跡・溝跡が検出された。また、第2次調査区では、東側で河川跡と溝跡、中央から西側で井戸跡・溝跡・柱穴群、第1次調査区から延びる河川跡が検出された。

遺跡の層序は、I層が耕作土上で水田面から15~20cm、II層が20~30cmの黒褐色粘土で、この層序はは場整備の際に動かされた搅乱層で遺物が混入する。III層は地山で黒褐・褐・青灰色の粘土または砂砾となる。

S B 1・2 掘立柱建物跡（第6・7図）

第1次調査区の北東側の、D-10グリッド内にあり、S G 56河川跡とS B 1、S B 2は重複している。三者の新旧関係は、S G 56が最も古いが、S B 1とS B 2では不明である。

S B 1 掘立柱建物跡（第6図） 2間×2間の総柱建物である。南北4.0m、東西4.2mをそれぞれ測る。柱間は概ね2.0mであるが、南北の中央列は東西の柱筋から僅かにずれるため、S P 140とS P 139の柱間とS P 139とS P 142の柱間が4.2mとなる。

柱の掘方には、径20~42cmの円形もしくは梢円形を呈し、深さは、確認面から22~34cmの掘り込みとなる。S P 106・113・131・139・140・142から太さ8.0~13.8cmの柱根が検出された。柱の構成は、S P 106・110・113・131・139・140・142・149・156となる。

柱根の樹種同定と年代測定では、材質が杉、製材跡があり、年代が5世紀代との結果がえられている。

S B 2 掘立柱建物跡（第7図） 2間×2間の建物であるが、やや東西に長くなる。南北3.4m、東西4.1mをそれぞれ測る。柱間は概ね2.0mであるが、東辺列のS P 54が北寄りにあり、S P 129と1.5m、S P 146と2.0mの柱間である。さらに西辺列の南角にあるS P 118は、軸線から若干東に寄っている。

柱の平面形は、径15~42cmの円形もしくは梢円形を呈しており、深さが10~22cmではほぼ垂直に掘り込んでいるが、いずれもはっきりとした掘方を持たない柱である。柱根は検出されていない。

柱の構成は、S P 54・116・118・129・141・145・146・155である。

S B 1・2 掘立柱建物の構築された時期は、新旧関係が明らかではないが、周辺から5世紀代の土師器の高壙破片が出土し、柱根の年代測定の鑑定結果からも5世紀代の掘立柱建物と考えられる。

S K 12 土坑（第7図）

第1次調査区北側の、C-9グリッド北西内にあり、水田の暗渠によって一部壊されている。南西側で性格不明の落ち込みにより切られている。

平面形は不整の隅丸方形を呈している。大きさは、南北3.1m・東西2.5mで、深さが32~42cmを測る。

断面形は、壁際付近では掘り込みが浅く、土坑の中央にいくにしたがって深くなっていく。底面は、壁付近では平坦であるが、中央部になると不整のピットなどの掘り込みにより凸凹した状態であり、一定した状態ではないのが特徴である。地山を掘り込んでいるが、壁や底面が軟弱である。

土層は、1~5層に分けられる。全体に炭化物が多く混入している。堆積の状態は、より西側の方向からレンズ状に堆積する。S K 12土坑は、平面形や掘方などが不明確であり、遺構自体の性格は不明である。時期は、覆土中から流れ込んだ土師器高壙破片と須恵器蓋破片が出土していることから、5世紀代以降のものと考えられるが、詳細は不明である。

S K13土坑（第7図）

第1次調査区北側の、C-9グリッド内に位置し、S K12、S K15と隣接している。

平面形は、南側がやや大きく膨らむ不整の円形を呈している。大きさは東西87cm、南北79cmで、確認面からの深さは38cmを測る。

壁面は、北側から南側にかけては緩やかに掘り込まれるが、西側ではほぼ垂直になっている。底面は概ね平坦であるが、北側で凹凸がみられる。地山層を掘り込んでいるが壁および底面は軟弱である。

堆積土は、1~3層に区分された。いずれの層序も粘土と細かい砂礫が全体に混じり合っている。

遺物は、1層下部から流れ込みによるとみられる土師器の高环脚が出土している。

時期は、堆積土中から出土した土師器から判断して、5世紀代の所産と考えられるが、性格は不明である。

S K14土坑（第7図）

第1次調査区北東側の、C-10グリッド内に位置している。北西側でS B 1・2と隣接し、S G 56を掘り込んでいる。

平面形は、東側がやや直線的になる不整の円形を呈している。大きさは東西71cm・南北64cmで、確認面からの深さは16cmを測る。

壁面は、掘り込みが浅く断面が皿状を呈している。S G 56の粘土混じりの砂礫層を掘り込んでいるため、壁や底面が非常に軟弱である。

土層は2層に分けられる。覆土中から土師器の壺が4点まとめて出土している。

時期は、出土した土師器壺から考察して古墳時代の5世紀代と考えられる。性格は不明である。

S K15土坑（第7図）

第1次調査区北側の、C-9グリッド内に位置している。南東側でS B 1・2と、北側でS K13とそれぞれ隣接している。

平面形は、西側がやや直線的になる不整の円形を呈している。大きさは南北135cm・東西123cmで、確認面からの深さは26cmを測る。

壁面は、S K14と同様に全体の掘り込みが浅く、断面

形が皿状を呈している。底面は全体になだらかになっているが、中央付近でやや凹凸がみられる。壁および底面は軟弱である。

土層は、細かく1~6層に区分され、全体に炭化物が多く混じり合っている。遺物の出土はみられない。

時期および性格は不明である。

S K16土坑（第7図）

第1次調査区の、H-7グリッド内にあり、S X 1と重複しているが、新旧関係は不明である。

平面形は不整の円形を示している。規模は、東西67cm・南北58cmで、深さが24cmを測る。

掘方は、西側から南側にかけて緩やかに、北側から東側ではやや垂直にそれぞれ掘り込まれている。底面は、概ね平坦であるが、東寄りにポケット的な小ビットがある。壁および底面は軟弱となる。

土層は、2層に分けられる。多量の炭化物を含みレンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

時期および性格は不明である。

S E74井戸跡（第8図）

第3次調査区中央西寄りの、H-9グリッド内に位置し、東側でS D75と重複している。新旧関係は、土層観察の結果S D75が新しいと判明した。なお調査した深さは、作業の安全性を考慮して1.2mまでとした。

平面形は、東側がやや突出するが、概ね円形を呈している。大きさは、東西推定1.4m、南北1.3mで、深さは簡易ボウリング棒での調査で1.9m前後を測る。

壁面は、井戸の中位まではやや緩やかに掘り込まれているが、それ以降は垂直になっていると見られる。粘土に小砂礫が混じるやや硬い地山層を掘り込んでいため、壁が縮まった状態である。底面の形状は不明である。

井戸内の堆積土は、4~13層の10層に区分される。全体に土層がグライ化している。各層序のうち、上部の4~6層は自然堆積と判断された。7層以下では、粘土塊に混じって拳大の礫が含まれており、人為的に埋め戻しているものと推測された。遺物は、4層から土師器片と小礫が出土している。

時期は、S D75との新旧関係および年代を考慮に入れると、古墳時代の5世紀代の所産と考えられる。

S D75溝跡（第8図）

第3次調査区の中央西寄り、H-9・10グリッド内に位置する。西側でS E74と重複している。新旧関係は、土層観察の結果S D75が新しいと判明している。

溝は、ほぼ南北方向に走っている。南側は調査区外に延びているため不明であるが、北側は第1次調査区まで延びず、第3次調査区に止まっている。また、溝の中央付近では小さく蛇行し、溝幅が狭くなる。

規模は、現存長約10m、溝幅が0.4~1m、確認面からの深さが20~35cmを測る。

壁面は、U字状に緩やかに掘り込まれおり、壁体もやや硬く締まっている。底面は、概ね平坦であるが、中央部では凸凹になり高まりをもち、北側と南側にそれぞれ緩やかな傾斜となっている。

土層の堆積は、1~3層に分けられた。全体にグライ化し、1・2層で炭化物や小礫が多量に混じる。3層は炭化物や小礫が僅かに含まれる。

遺物は、1・2層から土師器壺の破損品が多量に投げ捨てられた状態で出土したもの、3層からは出土しなかった。

時期は、出土した土器から古墳時代の5世紀代の所産と考えられる。

S G56河川跡（第9・10図）

第1次・第3次調査区内の西側から東側を通り北東方向に走っており、第3次調査区の西側で大きく蛇行している。流路は不明であるが、大山川などの流路を参考とすれば、その規模は、川幅の上面で4.5~7m、深さが1.1~1.5mと推測されるが、全体の規模は不明である。

土層の堆積は、1~7層に区分された。いずれの土層も概ねレンズ状に堆積し、グライ化している。また、自然の流木・木片・炭化物・炭化材・粘土塊などが、各層に亘って大量に含まれている。

S G56以外の河川跡の土層堆積も、同様に流木や木片などが混じり、粘土層と砂礫層が互層となって、レンズ状に堆積する特徴がある。

出土遺物は無く時期が不明であるが、S G56の上面にS B1・2やS K14などが構築されていることから、古墳時代の5世紀代以前に存在したとみられ、恐らくは大山川の支流と考えられる。

S X53性格不明遺構（第11図）

第1次調査区の北側中央付近、D・E-10グリッド内に位置し、北側でS B1・2と接続しており、SG56の上面にある。SD51と重複しており、SD51が新しい。

平面形は、非常に凹凸がみられる不整の形を呈している。規模は、南北が7.4m・東西が5.6mで、確認面からの深さが40~56cmを測る。

掘り込みの状態は、東側から西側に向かって、凹凸を持ちながら、緩やかに落ち込んでいる。また、西側では一部平坦となっている。

土層の堆積は、I~11層に区分される。全体に炭化物・砂礫・木片などが多量に混じり、一定方向からの堆積を示さず、各方向から混じり合うようにレンズ状に堆積する。東側では、自然の流木が検出されている。

土器の出土は、西側で北東方向から流れ込むように、土師器の壺や高壺の破片が多く出土した。

時期は、出土した土器から判断して、古墳時代の5世紀代と考えられる。性格は不明である。

S G71・72河川跡（第5図）

第3次調査区の中央から東側寄りに位置する。SG72は北へと延び、第1次調査区のSX53と接続する。SG71・72は重複し、SG72が新しい。

規模は、SG71が幅78~98cm・確認面からの深さ29~38cm、SG72が幅1.1~3.2m・深さ16~46cmを測り、いずれも北側へと緩やかに傾斜している。出土した遺物も無く時期は不明である。

S G73河川跡（第5図）

第3次調査区の東端に位置する。北側と南側は未検出である。規模は川幅が6.2~7.3m、確認面からの深さが0.8~1.4mを測る。土層の堆積はSG56に近似している。

時期は、出土した土器等が無いため不明である。

柱穴群（第5図）

第3次調査区のI-8・9グリッド内で29基検出されたが、掘立柱建物や列の構成は確認できなかった。形はいずれもほぼ円形を示し、径24~42cm、深さ14~32cmを測る。腐食した柱根が検出されたものもある。

いずれも時期は不明である。

2 遺 物

遺物の概要 (第5図)

玉作1遺跡から出土した遺物は、第1次調査から第3次調査まで合わせて24箱(文化財認定)が出土した。内訳は土器が23箱、木製品や石製品などが1箱である。時代別にみると古墳時代の遺物が最も多く、平安時代の遺物の他、中世や近世の陶器片も出土している。

出土地は、その大半がII層の黒褐色粘土層内、は場整備事業で削平し、集められ基盤となった擾乱層から出土し、遺構内からは少ない。

土器の遺存状態は、表面の風化が顕著で、器面の調整など不明な点が多い。

古墳時代の遺物 (第12図～第18図)

小型壺(1～3) 1は手づくね風、2は丸底、3は平底風の丸底の壺である。2・3とも焼成が良い。

壺(5～9) 口縁部形態がやや内弯する5と外反する6～9の2種がある。底部は丸底になる。

器台(10～13) 脚部の裾が広がる11・12と脚部が高くなる13がある。また10は穿孔されている。

高壺(14～64) 壺部は、口縁が大きく外反し下段に強い稜があるもの(14・34)と、中段に稜を持つもの(23・25・31～33・37)、口縁が丸く外反し、中段に丸みがある稜を有するもの(27～30)がある。また21は小型になる。

脚部から据部は、棒状のようになり、据が平らに開くもの(17～20)、壺部と脚部の接点が壺部を押し込むもの(21・22・39・44・54・56・57・60～64)がみられる。

裾部では、外面に稜を持たないもの(15)、稜のあるもの(16・26)があり、特に26は強い屈曲を持つ。58・59は据が大きく開く。その他に壺部と脚部を一体とするもの(45・53・55)などがある。

22・41～52では、脚部の器面裏側を棒状の工具で刺突し、さらに刷毛や削りなどで調整している。

甕(4・65～119) 口縁や頸部および体部など器形の違い、法量によって、概ね5つに分けられる。

小型になるもの(4・65・66)。4は頸部に、65は体部にそれぞれ最大径を持ち、66では口縁部から頸部にかけては直立する器形となる。

口縁部が肥厚し有段となるもの(69～72)。70は口縁部

上半が内弯ぎみに直立し、69・71は外反する。また、72はほぼ直立する。体部径より口縁径が小さい器形と考えられる。

口縁部が頸部から大きく外反し、口唇部が直立し面として調整されているもの(74・83)。

頸部から口縁部が大きく外反し、体部に丸みのある器形で、丸底で中央が窪んでいるもの(67)。84・85・88・98・99の口縁部、115・118の底部も同類とみられる。

頸部がやや直立し頸部から大きく外反し、体部下半に最大径を持つものの(68・77・79・91・92)。

底部(110～119)は、丸底と平底に分けられるが、いずれも中央が窪む。120は甕である。

121・122は手捏土器、123・124は高壺の壺部と脚部の接合品、126は滑石製の筋鍊車で、127は土鍊。125は、器台の脚部で穿孔しており、器表面のミガキ調整が顕著である。

平安時代の遺物 (第18図～第19図)

土師器壺(128～131) 128・129は小型で器高が低く口縁が内弯し、128は底部が窪む。130・131は器高が高く底部中央が窪んでいる。

土師器甕(132) 長胴甕の体部破片、器面の表裏に刷毛目がみられ、焼成がよい。

赤焼土器壺(140・142) 140はやや器高が高く底辺が僅かに調整を施している。

須恵器壺蓋(133～138) 134～136は蓋の摘みが無ない。133・134では返りの稜がみられ上底が平らになっている。135・136は器高が高く口唇がやや外反する。

137・138は蓋の摘みを有している。137が笠懸の形状になり、138は平らな摘みとなる。

須恵器壺(139・141・143・142) 141は底辺が大きく外反する。143は器高が高くやや内弯し、144は底辺から外傾している。

有台壺(145～147) 台の形状は、145は直立し、146・147は外傾し丸みがある。

須恵器壺(148・149) 頸部と体部の破片である。

須恵器甕(150・151) いずれも体部破片である。

中世・近世の遺物 (第19図152～159)

152・153は中世珠洲、154は近世の瀬戸美濃陶器、155～158は近世の肥前陶器である。

碧玉未成品(第21図) 3次に亘る調査で、性格不明遺構の覆土、遺物包含層などから石核2点、製作途中の未成品11点、剥片10枚点、製作途中に生じた細片が出土した。製品の出土はない。

角柱状に近い未成品があり、この未成品が管玉の製作途中に生じたものと考えられる。

管玉製作工程については、寺村光晴氏によつて、採石→荒削→形削→側面打裂→研磨→穿孔→仕上げの7工程が認識されている。

本遺跡から出土した未成品は、工程ごとに分類すると、荒削段階のものが多い。完成品が出土しておらず、完成形の大きさがわからぬため、形削段階のものと区別するのは困難である。

庄内地方からの未成品の出土は、初見である。しかし、本遺跡出土のものだけでは、製作工程を想定するだけの

資料が得られなかつた。基本的な作り方は、他地域と同様であると考えられるが、今後の資料増加と共に検討する必要がある。県内では、管玉の製作工程が分かる資料が出土している遺跡として天童市高瀬南遺跡がある。

碧玉の他に鉄石英製の石核8点、段階不明の剥片や細片が多数出土している。しかし、完成品や未成品といえる段階のものが認められず、鉄石英を使用して管玉を作つていたと断定することはできない。

これらの未成品、剥片などの出土から、本遺跡は管玉の生産遺跡であった可能性が考えられる。碧玉製・鉄石英製の管玉が1点も出土していないことから、完成品を他遺跡に供給していたと考えられる。

なお、碧玉・鉄石英とともに分析したが、原産地は不明であるという結果であった。

供給地及び原産地の検討は今後の課題である。

IV 調査のまとめ

日本海沿岸東北自動車道(温海~鶴岡)建設に伴う、玉作1遺跡の発掘調査は、平成17年度から平成19年度の3カ年にわたって行われた。

調査区全体では、昭和50年代後半のは場整備事業で削平された部分が見られ、第1次調査区及び第3次調査区では遺構が検出されたものの、第2次調査区では、遺構は確認されなかつた。

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡2・土坑5・井戸跡1・溝跡1・河川跡5・ビット83・性格不明遺構5である。

S B 1・2掘立柱建物跡は、調査区の中央に2棟検出され、重複しているが新旧は不明である。S B 1は2間×2間の絶柱の建物である。S B 2は2間×2間の建物である。いずれも柱間が概ね2mを測る。

S B 1・2掘立柱建物跡の時期は、柱根の年代測定を考慮すれば5世紀代の古墳時代と考えられる。

S K 12~16土坑5基は、形状や土層の堆積状態からみて、自然の落ち込みと考えられる。時期は出土した土器から5世紀以降である。

S E 74井戸跡は、集落の構成が明確ではなく、集落内の位置付けは不明である。

S D 75溝跡は、覆土上層から土師器壺の破損品などが投げ捨てられた状態で出土しているが、溝跡自体の性格は不明である。

遺跡は、大山川の氾濫原の微高地に立地している。このため、5世紀以前の状況は、恐らく大山川の本流や支流がまだあり、その河川の一部がS G 56・71・72・73などで、5世紀代になるとそれら河川が埋没して、S X 53のような窪地として点在するとみられる。

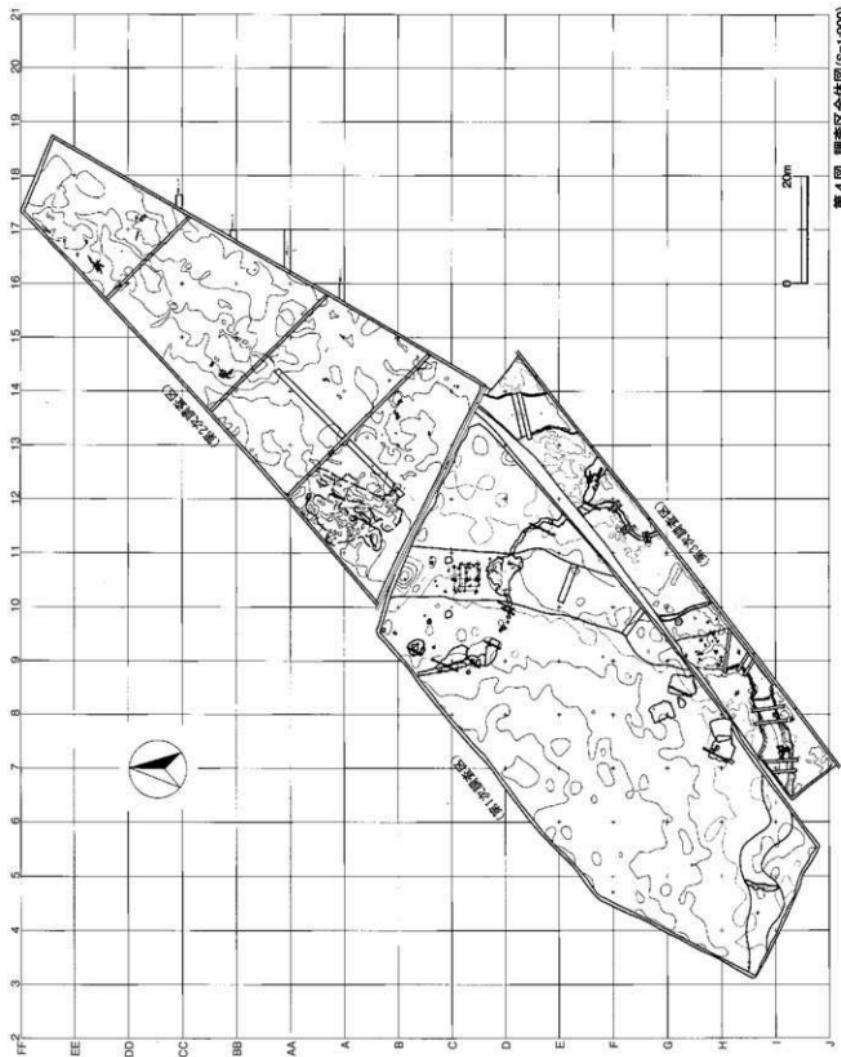
遺物は、24箱出土した。土師器は遺存状態が悪く、大部分が磨耗している。時代別には、古墳時代の土器が最も多く、次いで平安時代となる。

古墳時代の土師器は、高坏の脚部や壺が多く出土している。器種別にみると、壺が2分類、高坏が脚とあわせると3分類、壺が口縁の形と計測値で5分類にそれぞれ分けられる。時期は、その分類からみて、概ね5世紀前半と後半に分けられると考えられる。

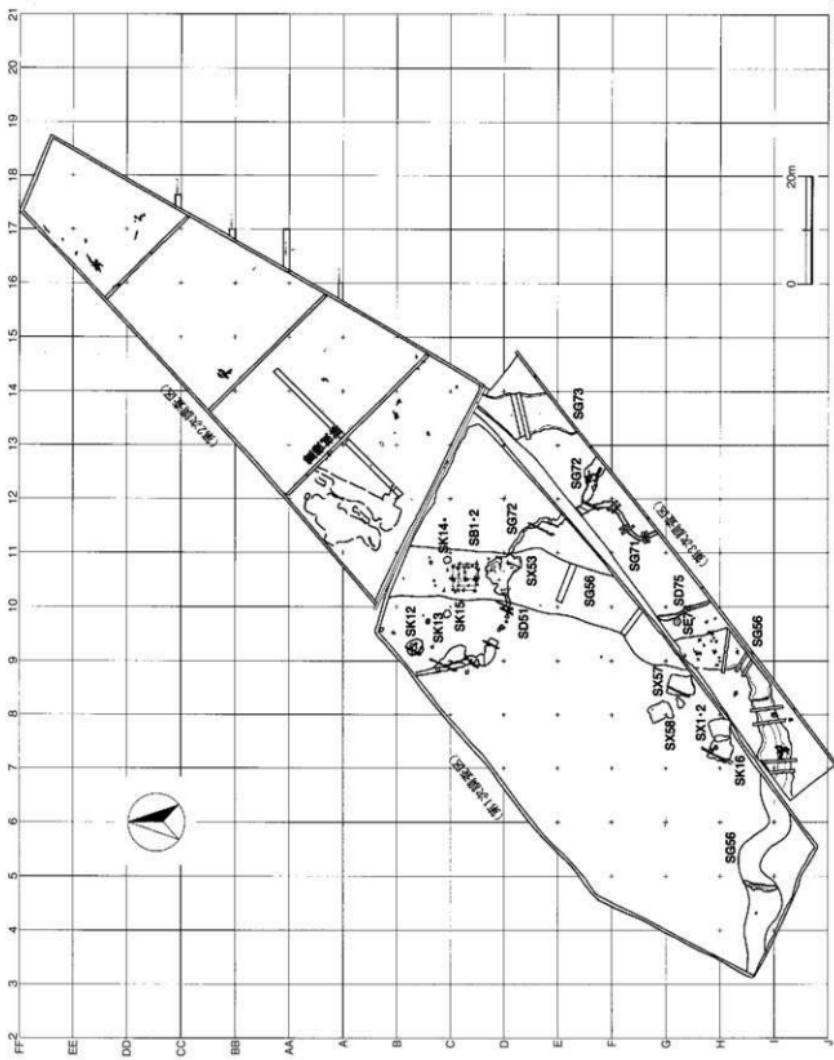
平安時代の土器は、土師器や須恵器の壺・蓋・壺・壺などが出土しており、概ね10世紀代の範疇になる。

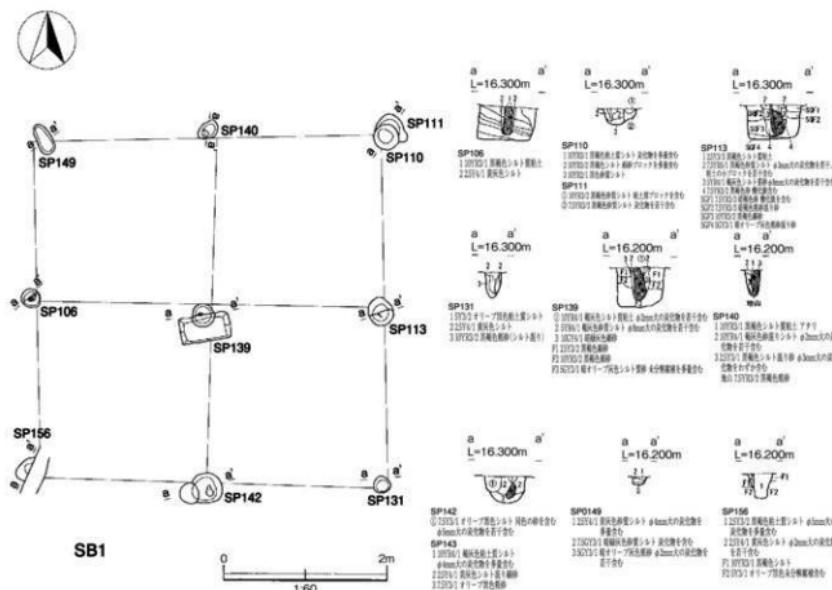
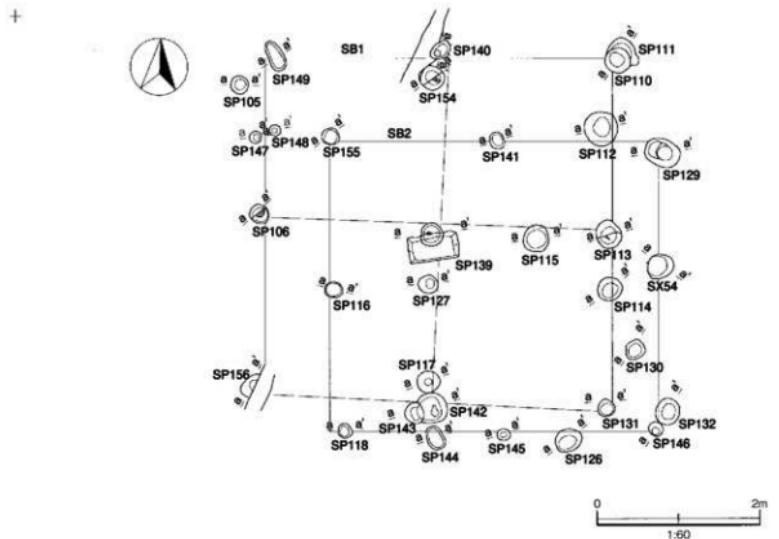
碧玉製品は、管玉など完成品の検出ではなく、碧玉の石核や荒削段階の未成品のみで、原産地は特定できなかつたが、試料の指標として今後に待ちたい。

第4図 調査区全体図 (S-1900)

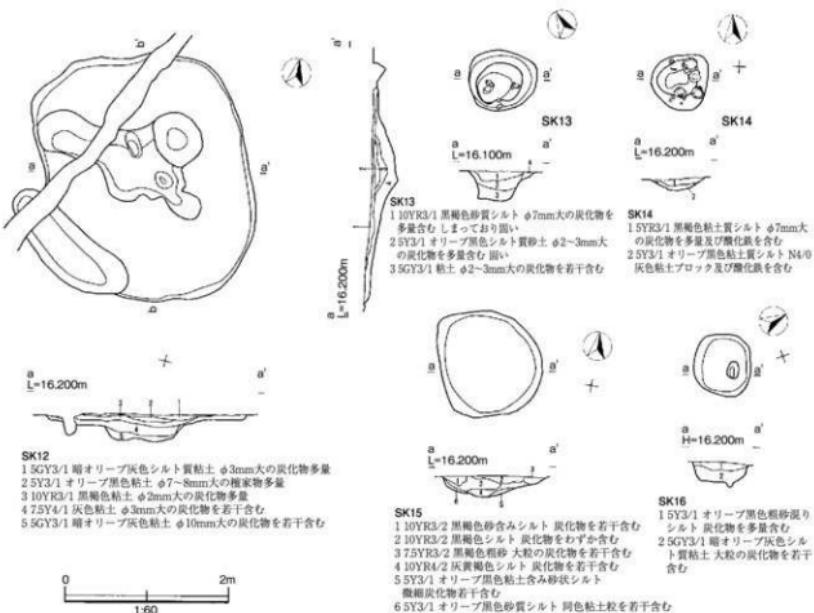
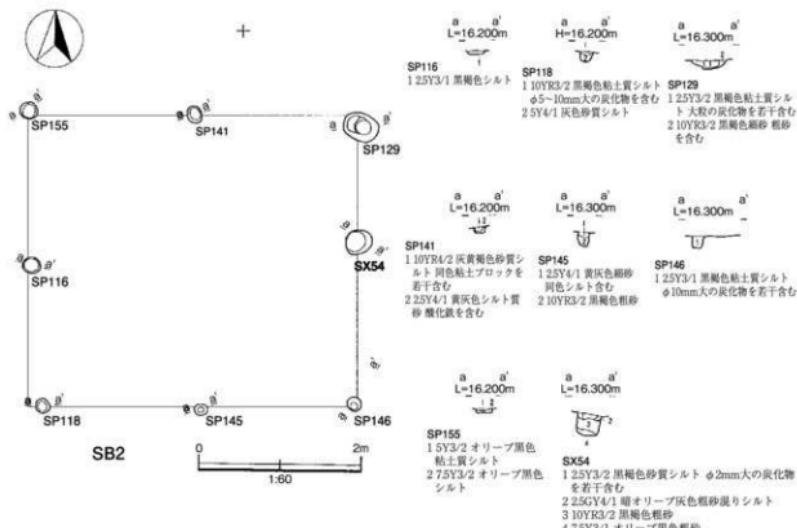


第5図 連続記録図(S-1900)

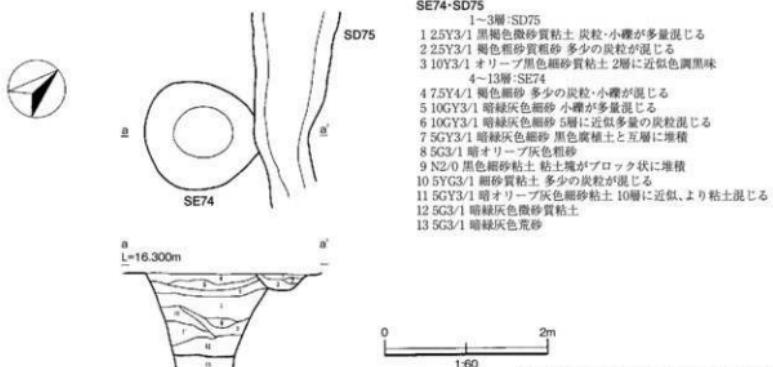
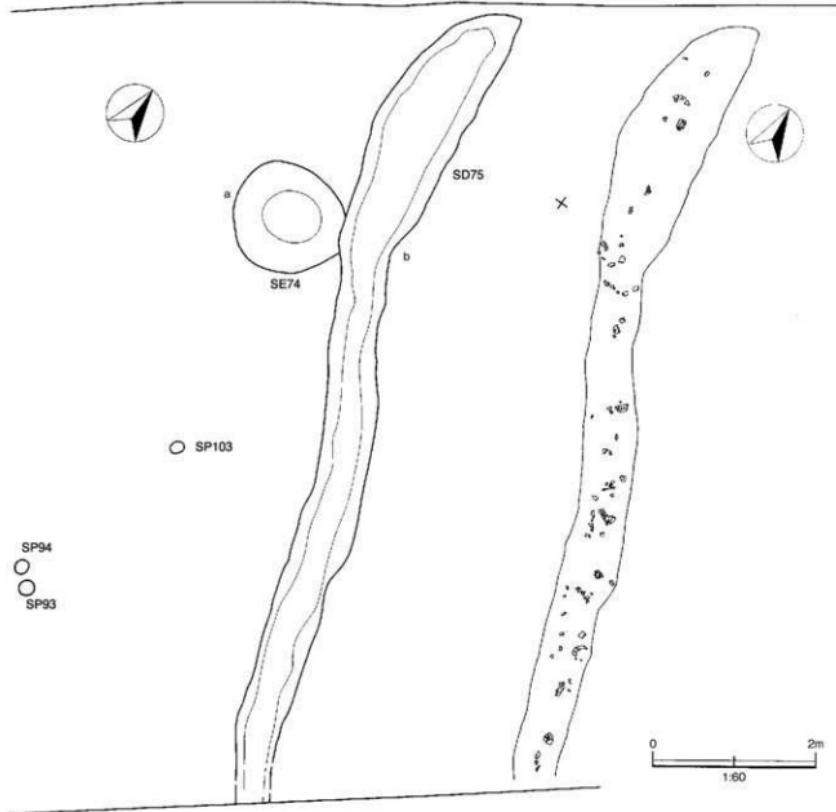




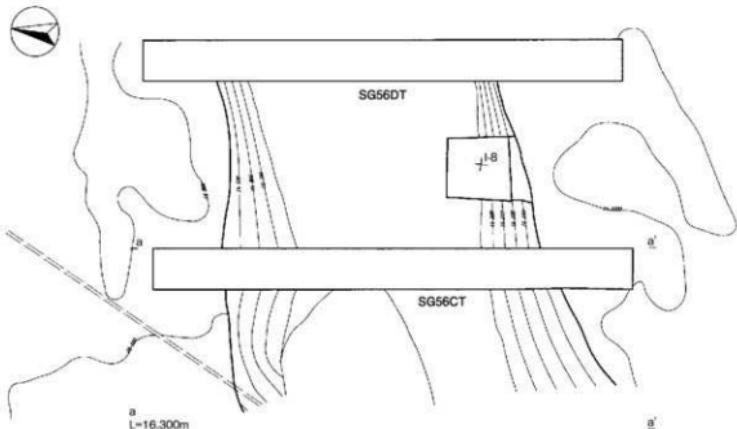
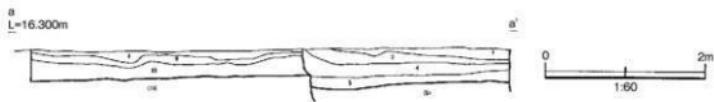
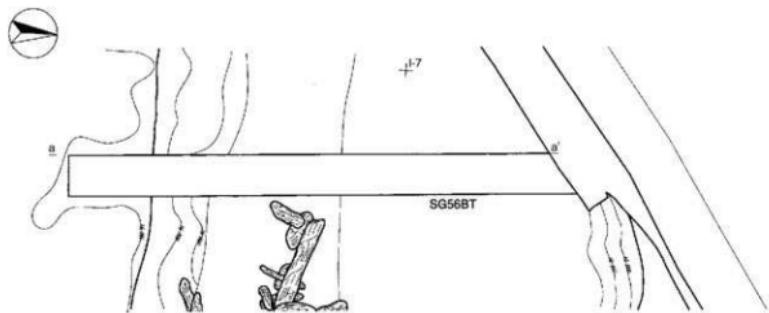
第6図 SB1-2掘立柱建物跡窓塞測図



第7図 SB2据立柱建物跡 SK12・13・14・15・16土杭実測図

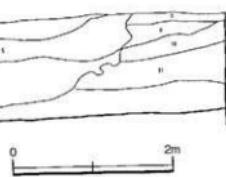


第8図 SE74井戸跡・SD75溝跡実測図

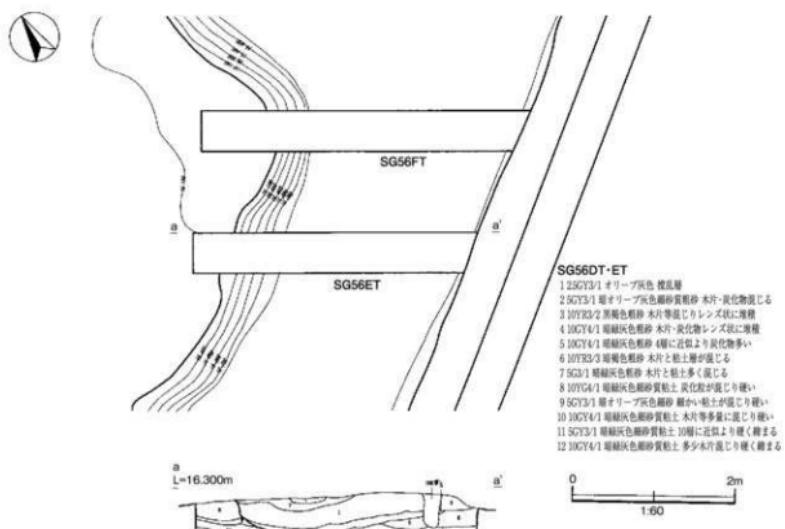
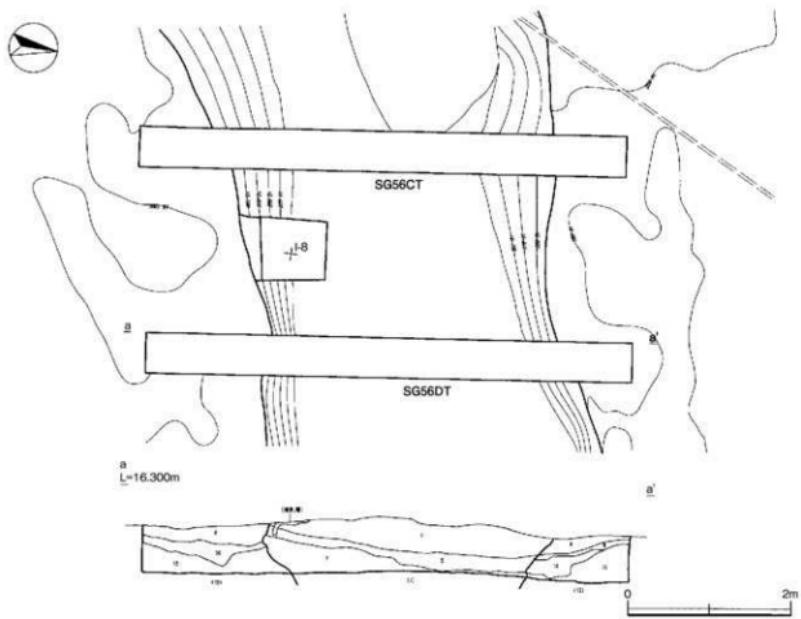


SG56BT-CT

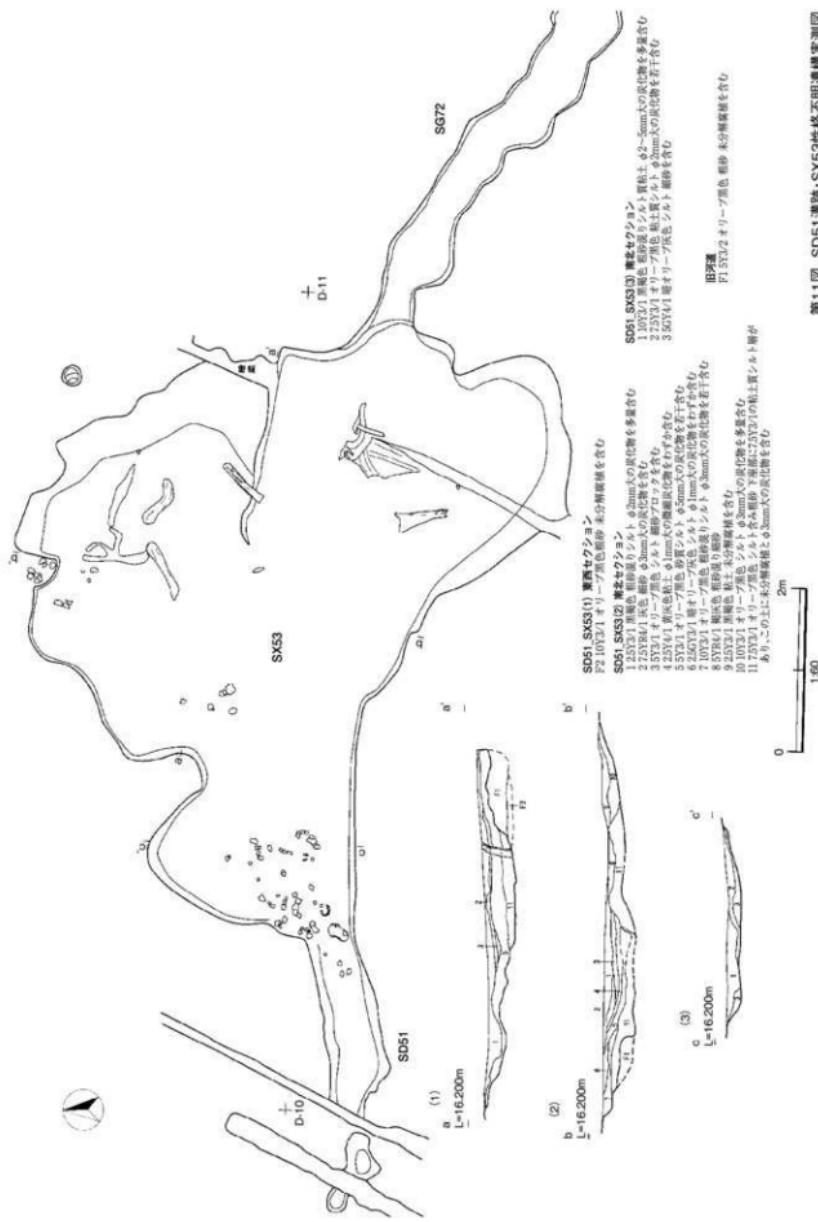
- 1 1967/1 線オリーブ色細粒質粘土 木片・炭化物混じる
- 2 1967/1 線オリーブ色細粒質粘土 木片・炭化物混じる
- 3 1967/2 黄褐色細粒・木片混じる・レンズ状に有機質
- 4 1967/1 細粒灰色細粒・木片・炭化物・レンズ状に有機質
- 5 1967/4/1 細粒灰褐色細粒・木片・炭化物混じる
- 6 1967/3 2 細粒灰色細粒・木片・炭化物混じる
- 7 1967/1 細粒灰褐色細粒・木片・炭化物混じる
- 8 1967/1 線細粒灰色細粒質粘土 炭化物混じり青い
- 9 1967/1 線オリーブ色細粒質粘土 炭化物混じり青い
- 10 1967/1 細粒灰褐色細粒質粘土 木片・炭化物混じり青い
- 11 1967/1 細粒灰褐色細粒質粘土 10mm附近より木片・炭化物混じる
- 12 1967/1 細粒灰褐色細粒質粘土 少少木片混じり青く變まる



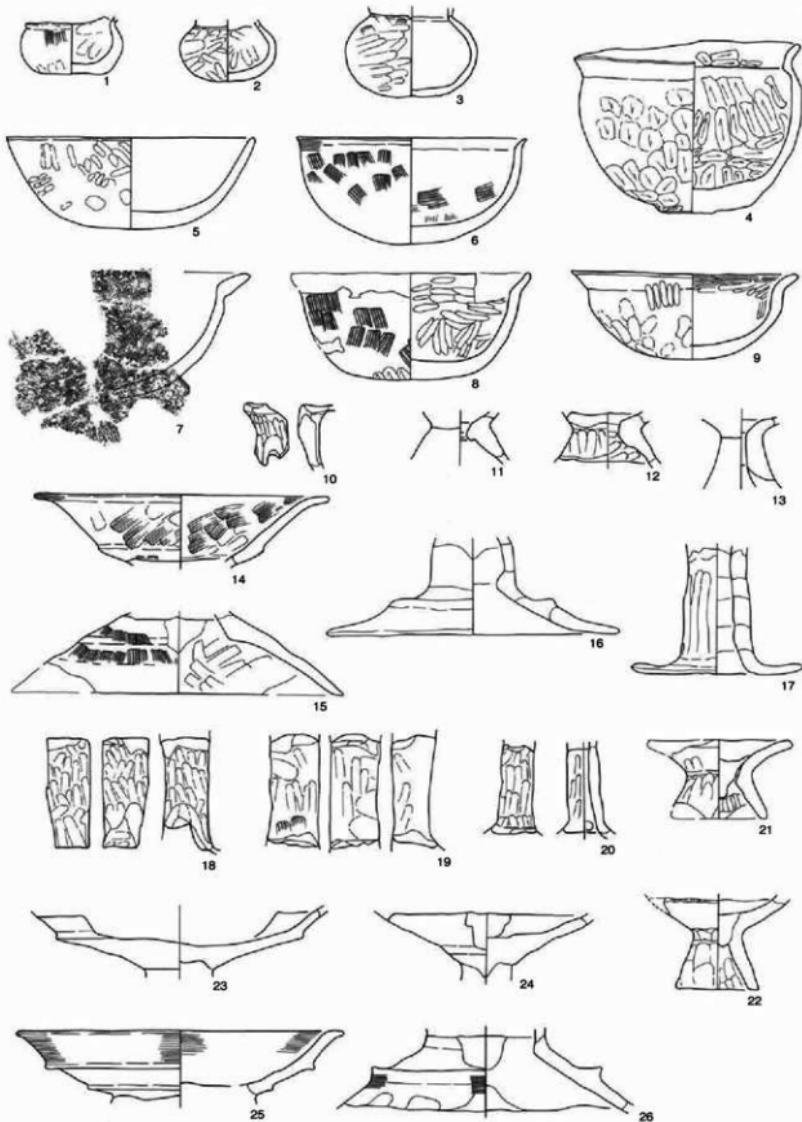
第9図 SG56河川跡実測図(1)



第10図 SG56河川跡実測図(2)

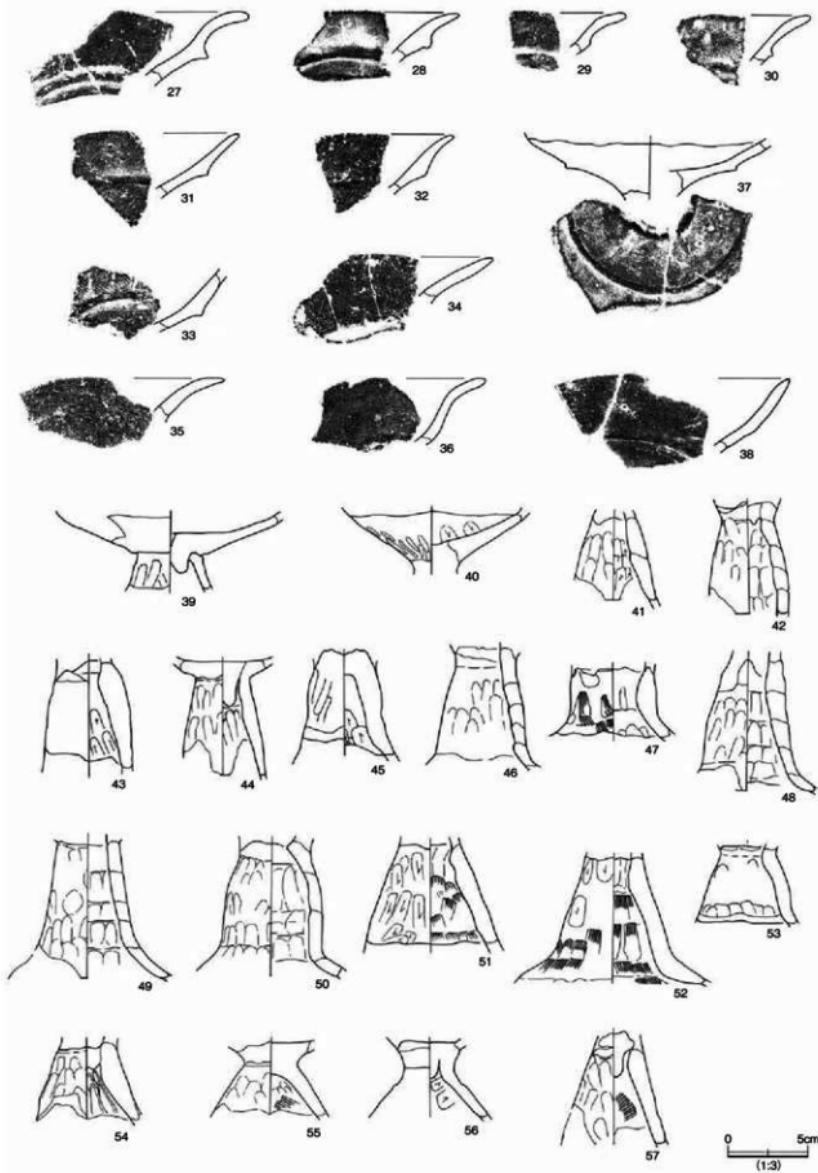


第11図 SD51溝跡・SX53性格不明遺構実測図

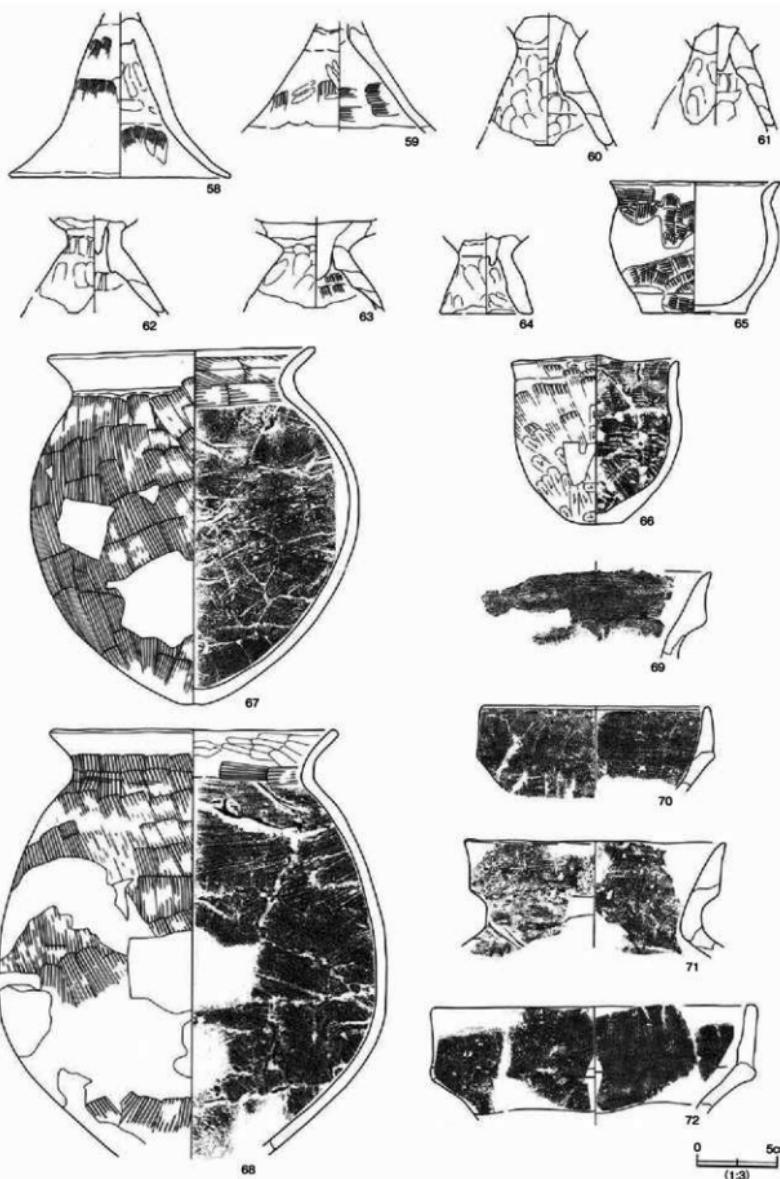


0 5cm
(1:3)

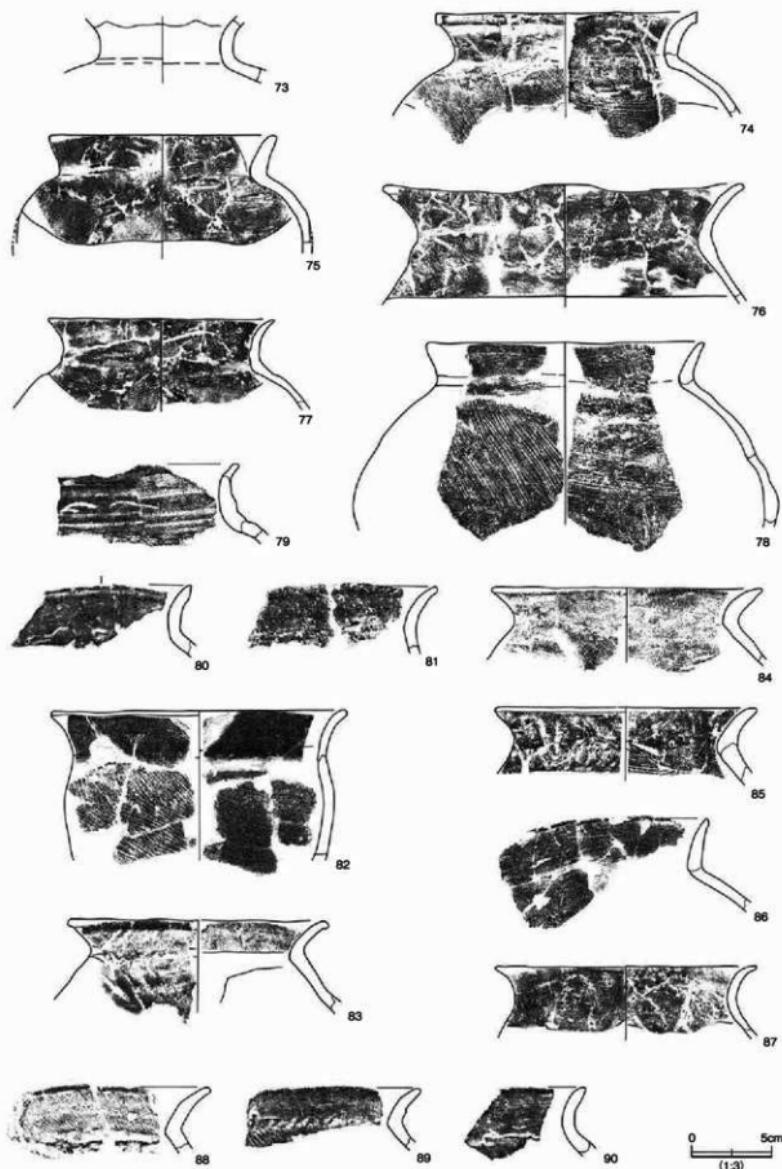
第12図 古墳時代土器実測図1(1~26)



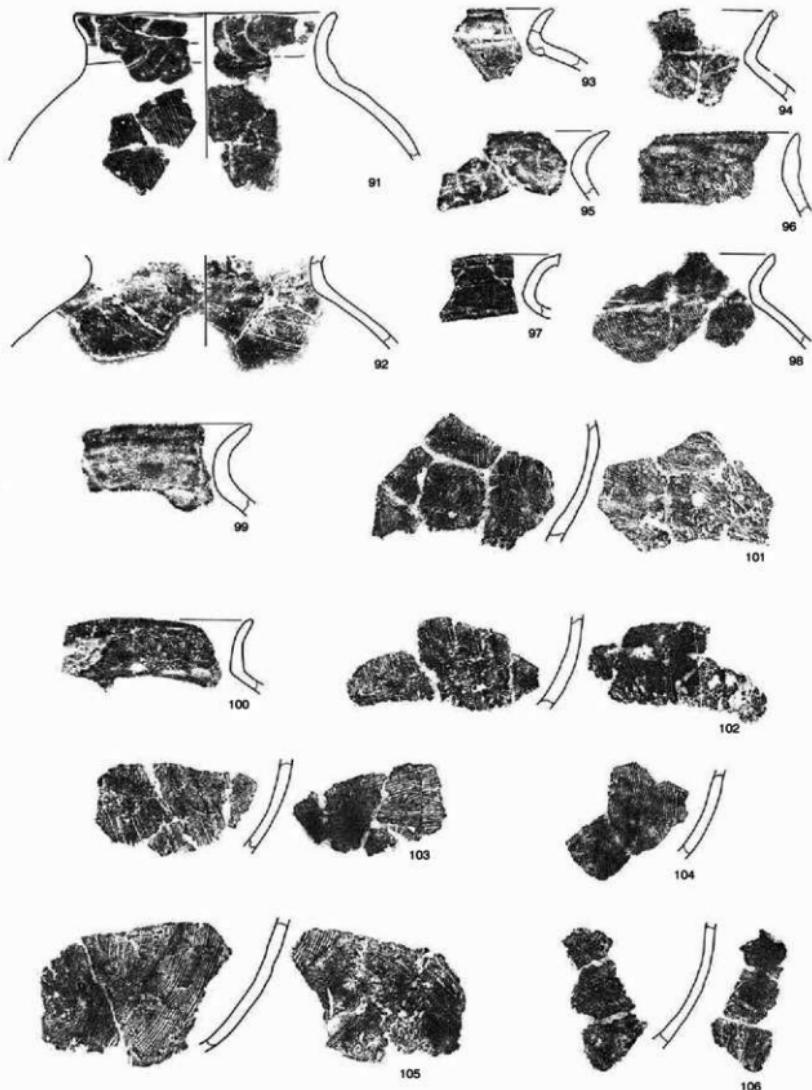
第13図 古墳時代土器実測図2(27~57)



第14図 古墳時代土器実測図3 (58~72)

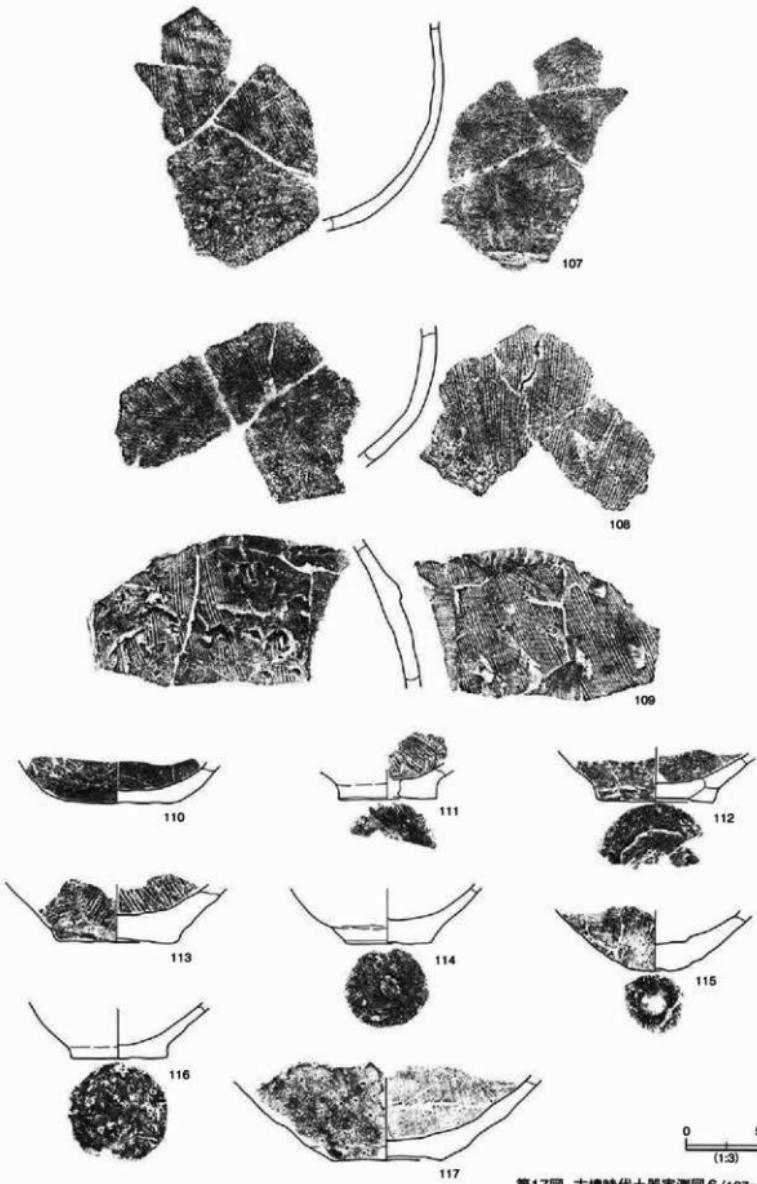


第15図 古墳時代土器実測図4(73~90)

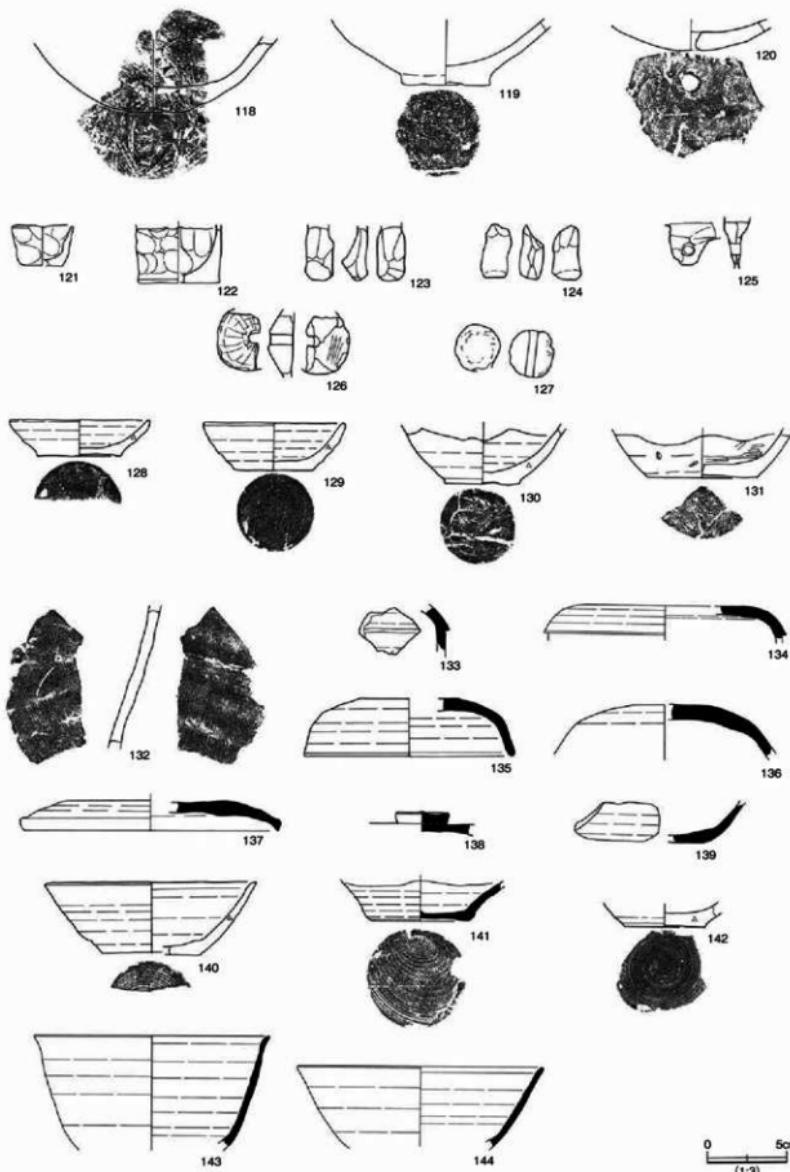


第16図 古墳時代土器実測図5(91~106)

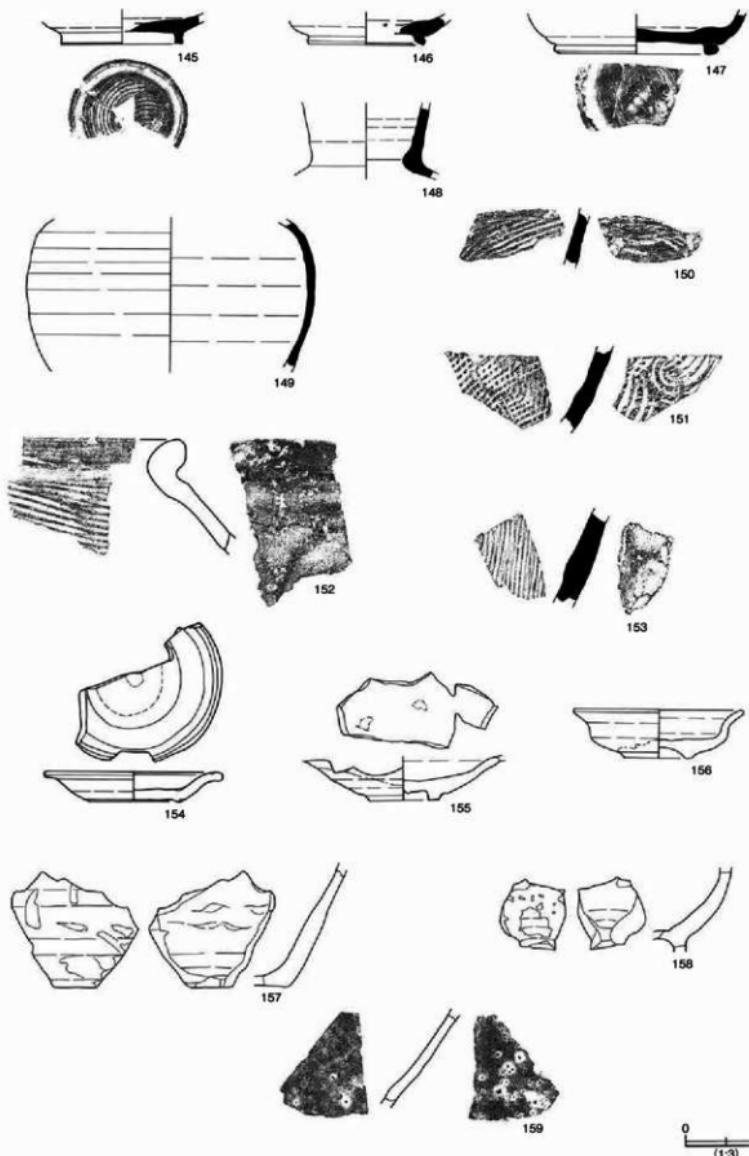
0 5cm
(1:3)



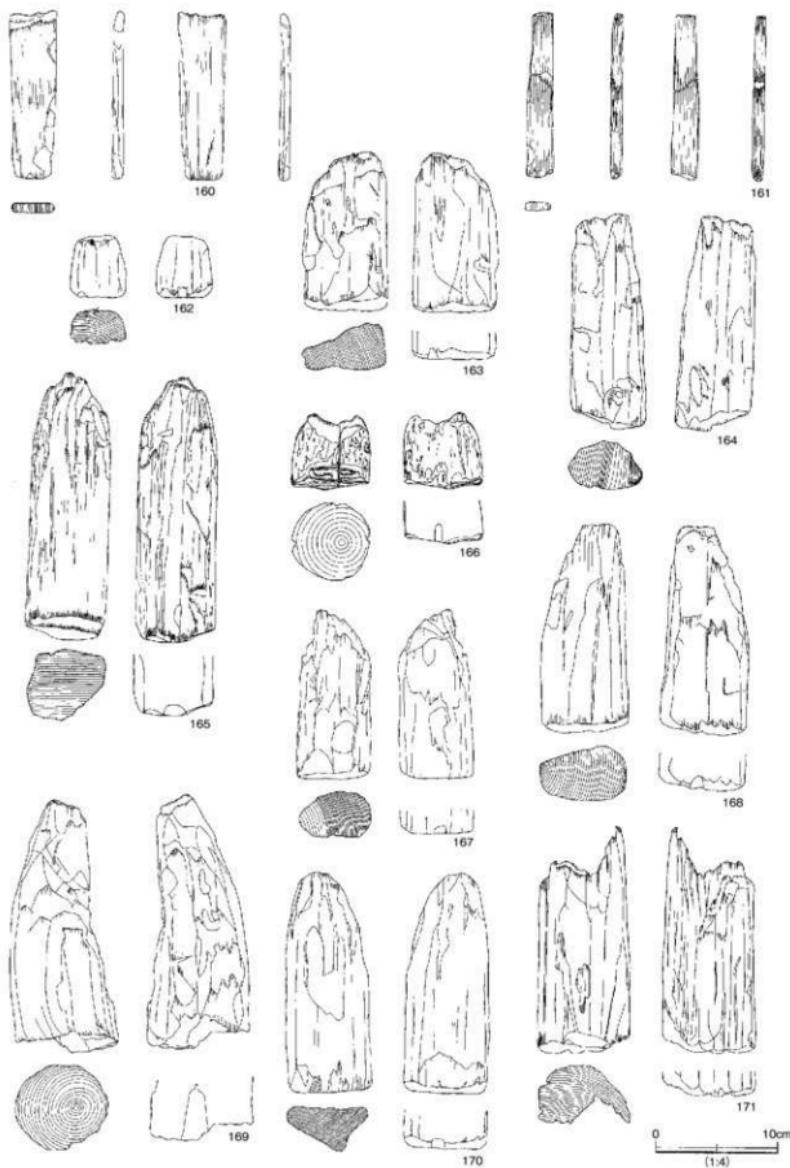
第17図 古墳時代土器実測図6 (107~117)



第18図 古墳・平安時代土器・土製品・石製品実測図(118~144)



第19図 平安時代・中世・近世土器実測図(145~159)



第20図 木製品実測図(160~171)



第21図 碧玉未成品実測図(172~182)

表1 古墳時代遺物観察表

※口径・底径・器高・器厚の単位はミリメートル、() は推定値

番号	登録番号	出土地点	器種	器形	口径	底径	器高	器厚	内面調整	外面調整	胎土	焼成	備考
1	R P 8	G-7	土師器	小型壺	36	6	ナデ	ハケメ・ミガキ	緻密	堅			
2		A A-14	土師器	小型丸底壺	(15)	4	ミガキ	ミガキ	緻密	堅			
3	R P 6	S X 59	土師器	小型丸底壺	(25)	4		ミガキ	緻密	堅			
4	R P 14	S K 14	土師器	小型壺	138	32	104	6	ケズリ	ケズリ	粗砂混	軟	
5	R P 16	S K 14	土師器	壺	153	56	6		ハケメ・ミガキ	粗砂混	堅		
6		S X 53	土師器	壺	140	40	65	5	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	
7	R P 11	S K 13	土師器	壺	(185)	(76)	7	ミガキ	ケズリ	粗砂混	堅		
8	R P 13	S K 14	土師器	壺	146	60	65	6	ミガキ	ハケメ・ケズリ	細砂混	堅 内里	
9	R P 15	S K 14	土師器	壺	138	27	52	7	ミガキ	ケズリ・ミガキ	細砂混	堅 内里	
10		S D 75	土師器	器台			5		ミガキ	緻密	堅		
11		F-4	土師器	器台			6			細砂混	堅	赤彩	
12	R P 37	S D 75	土師器	器台		7	ケズリ	ミガキ	緻密	堅			
13		B-9	土師器	器台			6			緻密	堅		
14		S X 55	土師器	高壺	(176)		6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅		
15		S X 59	土師器	高壺	(202)		7	ハケメ		粗砂混	堅	赤彩	
16		D-9	土師器	高壺	(180)		6			細砂混	堅		
17			土師器	高壺	(104)		5	ミガキ		細砂混	堅		
18		H-9	土師器	高壺			6	ミガキ		細砂混	堅		
19		J-6	土師器	高壺			5	ミガキ		細砂混	堅		
20		H-9	土師器	高壺			6	ミガキ		細砂混	軟		
21		D-11	土師器	高壺			6	ミガキ		細砂混	堅		
22		E-9	土師器	高壺			7			細砂混	堅		
23		H-9	土師器	高壺			6			粗砂混	堅		
24		G-10	土師器	高壺			6			粗砂混	堅		
25		F-11	土師器	高壺			6	ナデ	ナデ	粗砂混	堅		
26		F-12	土師器	高壺			8		ナデ	細砂混	堅		
27		I-4	土師器	高壺			5			粗砂混	堅		
28		D-11	土師器	高壺			5			細砂混	堅		
29		D-10	土師器	高壺			6			粗砂混	堅		
30		G-8	土師器	高壺			6			粗砂混	堅		
31		C-9	土師器	高壺			7			粗砂混	堅		
32		S K 12	土師器	高壺			6			粗砂混	堅		
33		I-4	土師器	高壺			6	ハケメ	ハケメ	粗砂混	堅		
34		D-10	土師器	高壺			6	ハケメ	ハケメ	粗砂混	堅		
35		S X 53	土師器	高壺			5			粗砂混	堅		
36		D-8	土師器	高壺			5	ハケメ		細砂混	堅		
37		D-11	土師器	高壺			5			粗砂混	堅		
38		D-11	土師器	高壺			7			粗砂混	軟		
39		G-9	土師器	高壺			6		ケズリ	粗砂混	堅		
40		S X 53	土師器	高壺			7	ケズリ	ミガキ	粗砂混	堅		
41		C-9	土師器	高壺			7	ケズリ	ミガキ	粗砂混	堅		
42			土師器	高壺			7	押压痕	ミガキ	粗砂混	堅		
43		E-12	土師器	高壺			10	ケズリ		粗砂混	堅		
44		S X 53	土師器	高壺			7	ケズリ・ミガキ	ミガキ	粗砂混	堅		
45		H-10	土師器	高壺			10	ケズリ	ミガキ	粗砂混	堅		

表1 古墳時代遺物観察表

※口径・底径・器高・器厚の単位はミリメートル、()は推定値

番号	登録番号	出土地点	器種	器形	口径	底径	器高	器厚	内面調整	外面調整	胎土	焼成	備考
46			土師器	高环			7	ナデ	ミガキ・ナデ	細砂混	堅		
47		B-9	土師器	高环			8	ケズリ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅		
48		D-9	土師器	高环			6	ナデ	ミガキ	粗砂混	堅		
49		C-8	土師器	高环			6	ナデ	ミガキ	粗砂混	堅	赤彩	
50		I-4	土師器	高环			8	押圧痕	ミガキ・ナデ	粗砂混	堅		
51		F-12	土師器	高环			8			粗砂混	堅		
52	S G51		土師器	高环			10	ハケメ	ハケメ・ケズリ	粗砂混	堅		
53			土師器	高环			8		ケズリ	粗砂混	堅		
54		D-11	土師器	高环			10	ケズリ		粗砂混	堅		
55		D-9	土師器	高环			8	ハケメ・ケズリ	ケズリ・ミガキ	粗砂混	堅		
56		G-10	土師器	高环			6	ケズリ		粗砂混	堅		
57		E-11	土師器	高环			8	ハケメ	ナデ	粗砂混	堅		
58	S G51		土師器	高环	(136)		5	ハケメ・ケズリ	ハケメ	粗砂混	堅	赤彩	
59	S X53		土師器	高环			6	ハケメ	ハケメ・ミガキ	粗砂混	堅		
60		D-11	土師器	高环			9	押圧痕	ケズリ	粗砂混	堅	赤彩	
61		D-11	土師器	高环			7	押圧痕	ケズリ・ミガキ	粗砂混	堅		
62		D-9	土師器	高环			7	押圧痕	ケズリ・ミガキ	粗砂混	堅		
63			土師器	高环			13	ハケメ・ケズリ	ケズリ	粗砂混	堅		
64		D-10	土師器	高环			8	押圧痕・ケズリ	ミガキ	粗砂混	堅		
65		F-12	土師器	小型壺	(104)	63	80	7		ハケメ	粗砂混	堅	
66	S D75		土師器	小型壺	102	20	104	5	ハケメ	ハケメ・ケズリ・ナデ	細砂混	堅	
67	S X53		土師器	壺	164	16	215	7	ハケメ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	内面 こげ、外面 煙
68	S X53		土師器	壺	170		7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	内面 こげ、外面 煙	
69	S X53		土師器	壺			12	ハケメ	ハケメ	細砂混	堅		
70		C-8	土師器	壺	(138)		8	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅		
71	S X53		土師器	壺	(160)		9	ハケメ	ハケメ	粗砂混	堅		
72		D-11	土師器	壺	(200)		8	ミガキ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅		
73	S X53		土師器	壺			7	ハケメ	ハケメ	細砂混	堅		
74	S X53		土師器	壺	(160)		7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
75	S D75		土師器	壺	(138)		7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅		
76	S D75		土師器	壺	(220)		5	ハケメ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅		
77	S E74		土師器	壺	(138)		5	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
78	S X53		土師器	壺	(170)		7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	外面 煙	
79		C-8	土師器	壺			8	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅		
80		D-9	土師器	壺			7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅		
81	S P157		土師器	壺			6			粗砂混	軟		
82	S K14		土師器	壺	180		5	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
83		G-8	土師器	壺	160		7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
84			土師器	壺	(166)		7	ナデ	ナデ	細砂混	堅	外面 煙	
85	S K12		土師器	壺	(160)		9	ハケメ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
86	S X53		土師器	壺			7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅	外面 煙	
87	S E74		土師器	壺			5	ナデ	ナデ	粗砂混	堅		
88			土師器	壺			8	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	外面 煙	
89		D-11	土師器	壺			7	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	細砂混	堅	外面 煙	
90		D-8	土師器	壺			6	ナデ	ハケメ・ナデ	粗砂混	堅		

表1 古墳時代遺物観察表

※口径・底径・器高・器厚の単位はミリメートル、()は推定値

番号	登録番号	出土地点	器種	器形	口径	底径	器高	器厚	内面調整	外面調整	胎土	焼成	備考	
91	S X53	土師器	甕	(160)	7	ハケメ	ハケメ			細砂混	堅	外面	煤	
92	C-9	土師器	甕		7	ハケメ	ハケメ			粗砂混	堅			
93	C-9	土師器	甕		6	ハケメ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		細砂混	堅			
94	S G51	土師器	甕		6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		細砂混	堅	外面	煤	
95	S X53	土師器	甕		6	ハケメ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		細砂混	堅	外面	煤	
96	S X53	土師器	甕		8	ハケメ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		粗砂混	堅			
97	S X53	土師器	甕		6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		細砂混	堅	外面	煤	
98	S X53	土師器	甕		6	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ		粗砂混	堅	外面	煤	
99	I-4	土師器	甕		7	ハケメ・ナデ	ナデ	ナデ		粗砂混	堅			
100	E-11	土師器	甕		7	ナデ	ナデ	ナデ		細砂混	堅			
101	S X53	土師器	甕		6	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅	内面	こげ	
102	S X53	土師器	甕		8	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅	外面	煤	
103	S X53	土師器	甕		5	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	外面	煤	
104	S X53	土師器	甕		5	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅	外面	煤	
105	S X53	土師器	甕		7	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	内面	こげ、外面	煤
106	S X53	土師器	甕		6	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	外面	煤	
107	S X53	土師器	甕		6	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	内面	こげ、外面	煤
108	S X53	土師器	甕		7	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	内面	こげ、外面	煤
109	S D75	土師器	甕		8	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅			
110	C-9	土師器	甕		7	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅			
111	C-9	土師器	甕	60	8	ハケメ				粗砂混	堅			
112	B-9	土師器	甕	68	7					粗砂混	堅			
113	S X53	土師器	甕	70	11	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅			
114	S X55	土師器	甕	52	6		ハケメ	ハケメ		細砂混	堅			
115	I-9	土師器	甕	20	9	ハケメ				粗砂混	堅			
116	S G51	土師器	甕	60	6	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅			
117	E-11	土師器	甕	(67)	7	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅			
118	S G51	土師器	甕	36	6	ハケメ	ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅	内面	こげ	
119		土師器	甕	52	5	ハケメ	ハケメ	ハケメ		細砂混	堅	内面	こげ	
120	C-9	土師器	甕	25	8		ハケメ	ハケメ		粗砂混	堅			
121	J-7	土師器	手程	(37) (25)	24	4	指頭痕	指頭痕		細砂混	堅			
122	F-12	土師器	手程	(48)	5	指頭痕	指頭痕	指頭痕		細砂混	堅			
123	I-8	土師器	高环のへそ		9	押圧痕	押圧痕	押圧痕		細砂混	軟			
124	H-9	土師器	高环のへそ		15	押圧痕	押圧痕	押圧痕		細砂混	軟			
125	H-9	土師器	器台		5					粗砂混	堅			

表2 石製品・土製品観察表

※長さ・幅・厚さの単位はミリメートル

番号	登録番号	出土地点	種別	長さ	幅	厚さ	備考
126	I-8	筋跡車		14	滑石、円形、表面	放射状線刻、裏面	研磨痕
127	I-9	土鍤		28		丸型	

表3 平安時代・中世・近世遺物観察表

※口径・底径・器高・器厚の単位はミリメートル。()は推定値

番号	登録番号	出土地点	器種	器形	口径	底径	器高	器厚	内面調整	外面調整	底部調整	胎土	焼成	備考	
128	C-11	赤堀	环		52	4	ロクロナデ	ロクロナデ		回転糸切り	織紗混	堅			
129	D-11	赤堀	环		48	5	ロクロナデ	ロクロナデ		回転糸切り	織紗混	堅			
130	X O	赤堀	环		45	7	ロクロナデ	ロクロナデ		回転糸切り	織紗混	堅			
131	F-8	土師器	环		74	6	ロクロナデ	ロクロナデ		回転糸切り	織紗混	堅	内里		
132	C-9	土師器	甕			6	ハケメ	ハケメ			織紗混	堅			
133	F-9	須恵器	蓋			4	ロクロナデ	ロクロナデ			緻密	堅			
134	G-8	須恵器	蓋			5	ロクロナデ	ロクロナデ			緻密	堅			
135	C-8	須恵器	蓋		(130)	4	ロクロナデ	ロクロナデ			粗紗混	堅			
136	E-12	須恵器	蓋			5	ロクロナデ	ロクロナデ			粗紗混	堅			
137	S K 12	須恵器	蓋		(160)	5	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
138	G-7	須恵器	蓋			5					織紗混	堅			
139	D-9	須恵器	环												
140	F-12	赤堀	环		(120) (53)	45	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	織紗混	堅			
141	F-7	須恵器	环			60	4	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	織紗混	堅	底部 漆付着		
142	E-11	赤堀	环			50	6			回転糸切り	緻密	堅			
143	G-8	須恵器	环		(144)	4	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
144	E-11	須恵器	环		(150)		ロクロナデ	ロクロナデ			緻密	堅			
145	E-10	須恵器	有台环		73	5	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
146	I-8	須恵器	有台环		(72)	6	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
147	G-8	須恵器	有台环		(100)	5	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
148	D-11	須恵器	甕			5	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
149	G-10	須恵器	甕			5	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
150	C-11	須恵器	甕			7	タタキ				織紗混	堅			
151	F-10	須恵器	甕			9	アテ痕	タタキ			織紗混	堅			
152	C-9	珠陶	甕			10	アテ痕	タタキ			織紗混	堅			
153	G-9	珠陶	甕			13	アテ痕	タタキ			織紗混	堅			
154	H-9	瀬戸美濃	皿		108	56	18	4			緻密	堅	内外面 施釉、見込 無釉、底部 輪ドチ 直		
155	F-12	肥前陶器	皿			44	5	ロクロナデ	ロクロナデ・ ケズリ	ケズリ	緻密	堅	内面・胎土目、内面・ 外面上半・灰釉、外 面下半・底部 無釉		
156	E-13	肥前陶器	皿		(104)	40	29	5	ロクロナデ	ロクロナデ・ ケズリ	ケズリ	緻密	堅	内面・外面上半・灰釉、 外面上半・底部 無釉	
157	G-10	肥前陶器	瓶			7	ロクロナデ	ロクロナデ			織紗混	堅			
158	G-10	肥前陶器	瓶			7	ロクロナデ	ロクロナデ			緻密	堅			
159	H-8	陶器	甕				5				織紗混	堅	内面 自然釉付着		

表4 木製品観察表

※長さ・幅・厚さの単位はミリメートル、()は残存値

番号	登録番号	出土地点	種別	長さ	幅	厚さ	備考
160	R W3	A A-13	板状品	(137)	36	8	
161	R W1	トレンチ	板状品	(136)	20	9	
162	R W24	S P 117	柱根	(103)	90	54	
163	R W25	S P 131	柱根	(258)	138	80	
164	R W23	S P 142	柱根	(340)	116	78	
165	R W21	S P 126	柱根	(430)	117	116	
166	R W29	S P 152	柱根	(122)	120	126	
167	R W28	S P 140	柱根	(276)	117	72	
168	R W22	S P 139	柱根	(343)	142	90	
169	R W20	S P 125	柱根	(413)	154	138	
170	R W27	S P 154	柱根	(351)	132	68	
171	R W26	S P 113	柱根	(350)	148	95	

表5 碧玉未成品観察表

※長さ・厚さの単位はミリメートル、重量の単位はグラム

番号	登録番号	出土地点	石材	器種	工程	長さ	厚さ	重量	備考
172		G-8	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	2	1.2	4.03	
173		G-9	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	3.2	2	8.1	
174		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	1.9	1.4	4.44
175		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	3.6	1.6	14.35
176		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	3.6	1.8	11.55
177	R Q1	H-8	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	4.1	1.8	14.11	
178		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	2.4	1.7	10.37
179		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	3.1	1.6	9.67
180		G-9	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	4.1	2	13.25	
181		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	3.8	3.5	20.98
182		S G56	I・J-7	碧玉	碧玉製玉未成品	荒削	5	2	22.12

引用・参考文献

- 寺村光晴 2002 「玉作とその流通」『ものづくりの考古学－原始・古代の人々の知恵と工夫－』大田区立郷土博物館編・東京美術
尾形與典・長瀬えみ子 2004 「高擧南遺跡・菖蒲江1遺跡・菖蒲江2遺跡」 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第132集 財團法人山形県埋蔵文化財センター
- 島根県古代文化センター 2004 「古代出雲における玉作の研究Ⅰ－中国地方の玉作関連遺跡集成－」島根県古代文化センター調査研究報告書22
- 島根県古代文化センター 2005 「古代出雲における玉作の研究Ⅱ－中国地方の玉製品出土遺跡集成－」島根県古代文化センター調査研究報告書28

写真図版



遺跡調査区全景(南から)



第3次調査区(西から)



第3次調査区(東から)



第1次調査区(東から)



SB1・2掘立柱建物跡



第2次調査区(東から)



第2次調査区(南西から)



第3次調査区遺構検出状況(西から)



第3次調査区遺構検出状況(東から)



SB1・2掘立柱建物跡(北から)



SB1・2掘立柱建物跡(東から)



柱穴群検出状況(南から)



SP106柱穴土層断面(東から)



SP113柱穴土層断面(南から)



SP131柱穴土層断面(南から)



SP140柱穴土層断面(北から)



SP142-SP143柱穴土層断面(南から)



SP152柱穴土層断面(南東から)



SP154柱穴土層断面(南東から)



SK12土坑完掘状況(南東から)



SK12土坑土層断面(南から)



SK13土坑完掘状況(南東から)



SK13土坑土層断面(南から)



SK14土坑完掘状況(西から)



SK14土坑土層断面(南から)



SK15土坑完掘状況(東から)



SK15土坑土層断面(東から)



SK16土坑完掘状況(北東から)



SK16土坑土層断面(北東から)



SE74井戸跡完掘状況
(南から)



SE74井戸跡・SD75
溝跡土層断面(南から)



SD75溝跡完掘状況(北から)



SD75溝跡完掘状況(南から)



SD75溝跡遺物出土状況(北から)



SD75溝跡遺物出土状況(南から)



柱穴群完掘状況(北西から)



SP83柱穴土層断面(南から)



SP87柱穴土層断面(西から)



SP91柱穴土層断面(西から)



SP99柱穴土層断面(南から)



SG56河川跡完掘状況(西から)



SG56河川跡土層断面西側(北から)



SG56河川跡Aトレンチ土層断面(西から)



SG56河川跡Bトレンチ土層断面(南から)



SG56河川跡Cトレンチ土層断面(南から)



SG56河川跡Dトレンチ土層断面(東から)



SG56河川跡 Eトレーニチ土層断面(南から)



SG56河川跡 Gトレーニチ土層断面(西から)



SG71・72・73河川跡検出状況(北西から)



SG73河川跡土層断面(西から)



SG71・72 河川跡完掘状況(西から)



SG71・72 河川跡完掘状況(北東から)



SX1-2・57・58性格不明遺構全景(西から)



SX1-2性格不明遺構完掘状況(北から)



SX2性格不明遺構南北土層断面(北西から)



SX2性格不明遺構東西土層断面(南から)



SX57性格不明遺構完掘状況(北から)



SX58性格不明遺構完掘状況(東から)



SX53性格不明遺構検出状況(北西から)



SX53性格不明遺構完掘状況(北東から)



SX53性格不明遺構土層断面(南東から)



SX53性格不明遺構土層断面(南から)



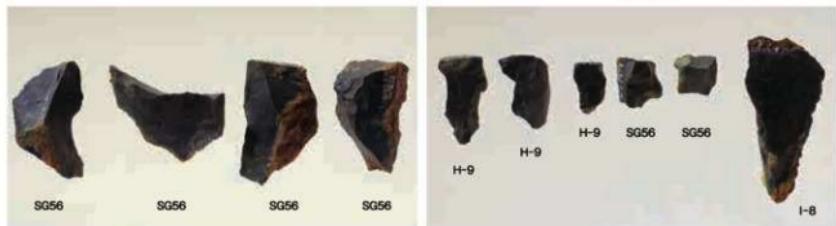
SX53性格不明遺構遺物出土状況(南から)



SX55性格不明遺構土層断面(南から)



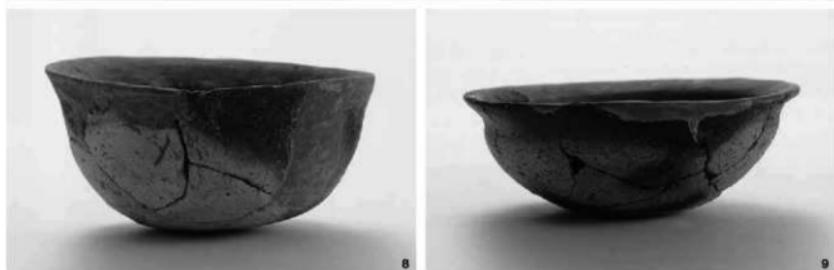
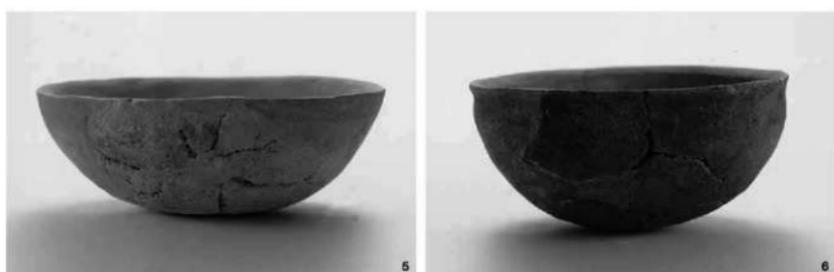
古墳時代の土師器



碧玉玉未成品·剥片



铁石英剥片



土器器坏·甌



14



16



17



21



22



39



41



42



43



44

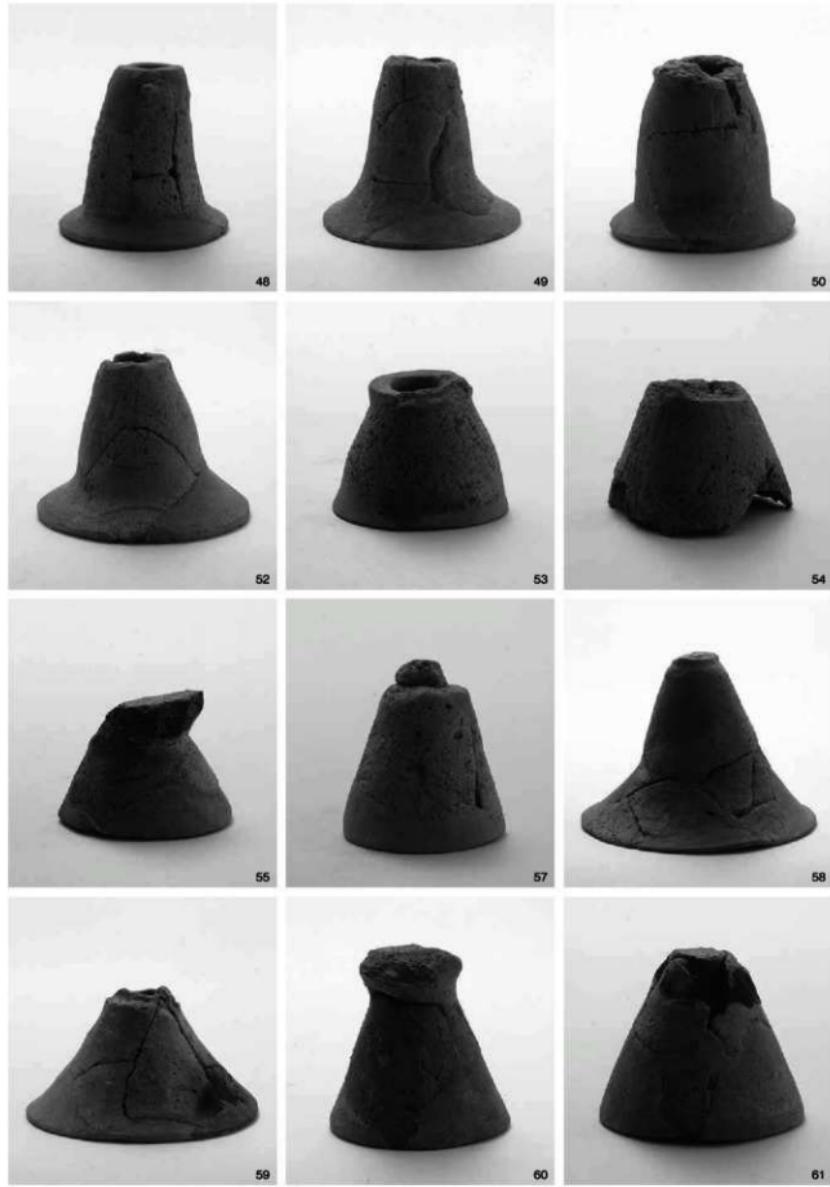


46

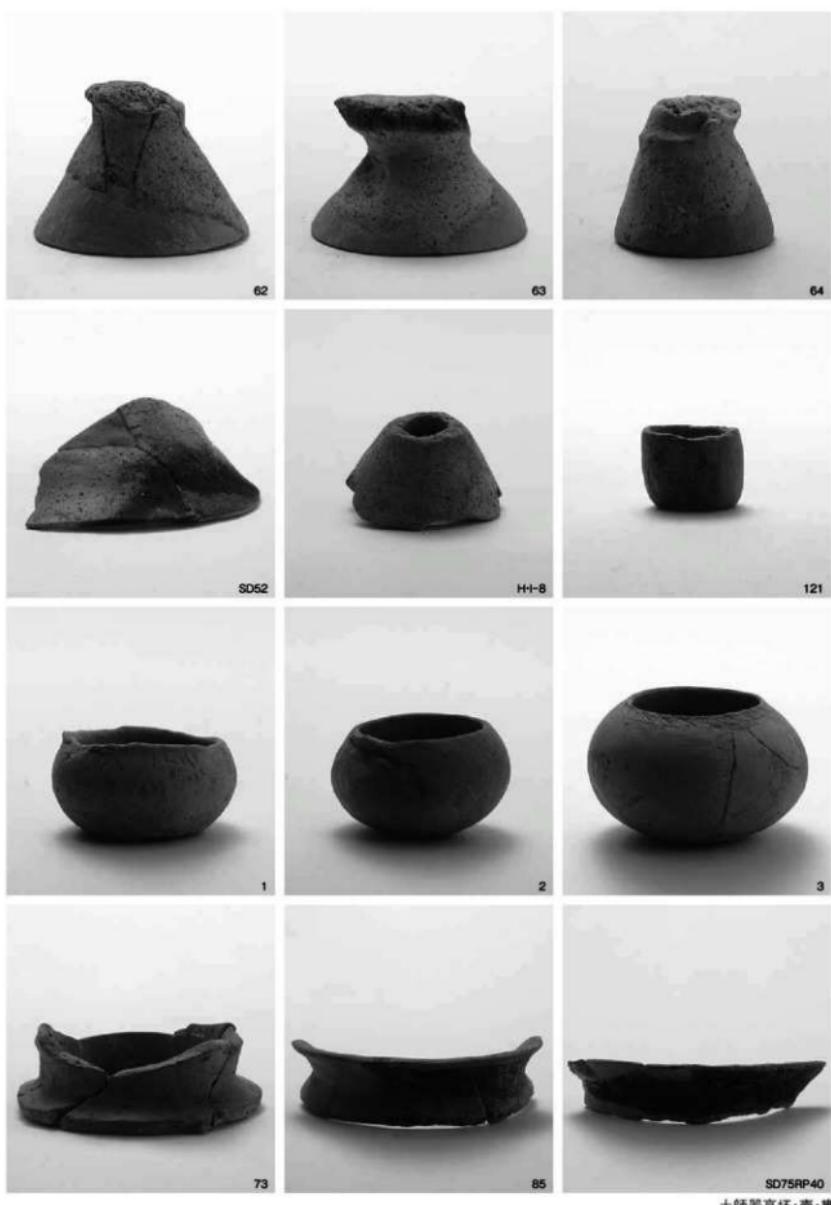


47

土師器高坏(1)



土器高坏(2)



土器高环·壺·甌



76



82



91



SX53

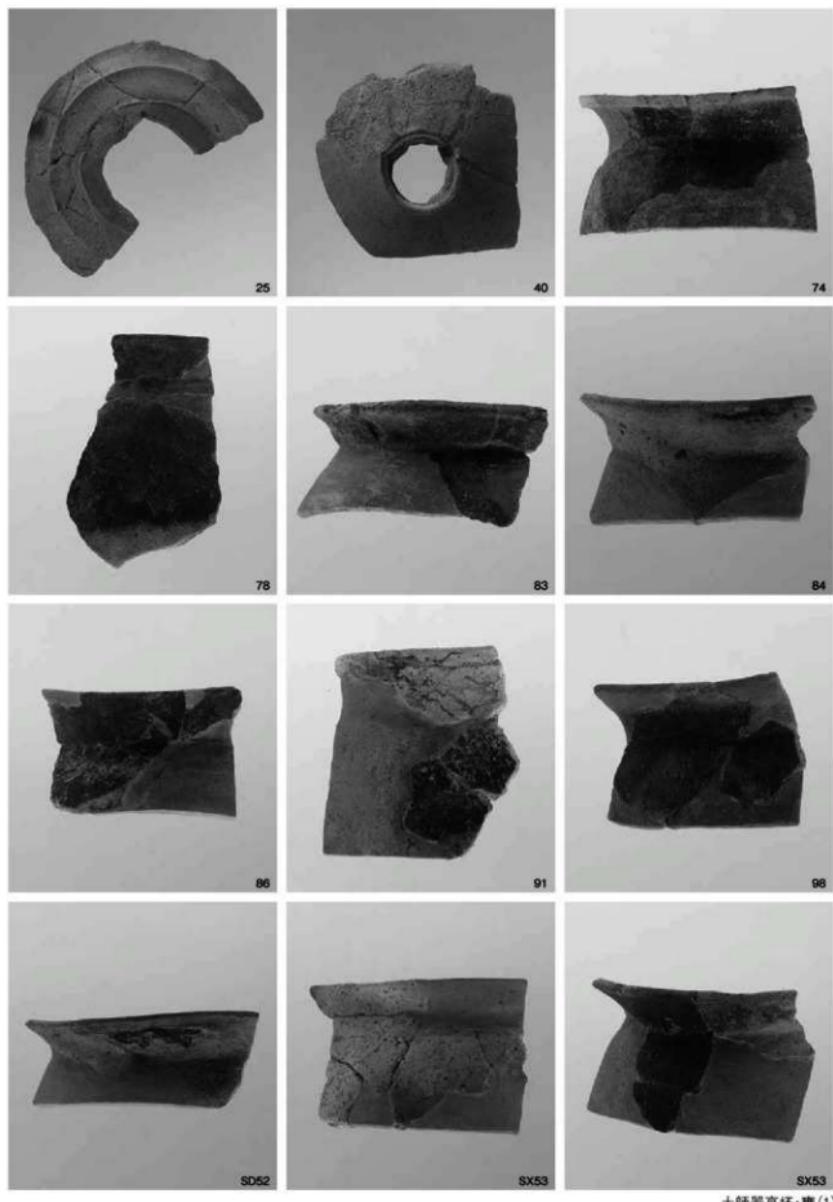


67

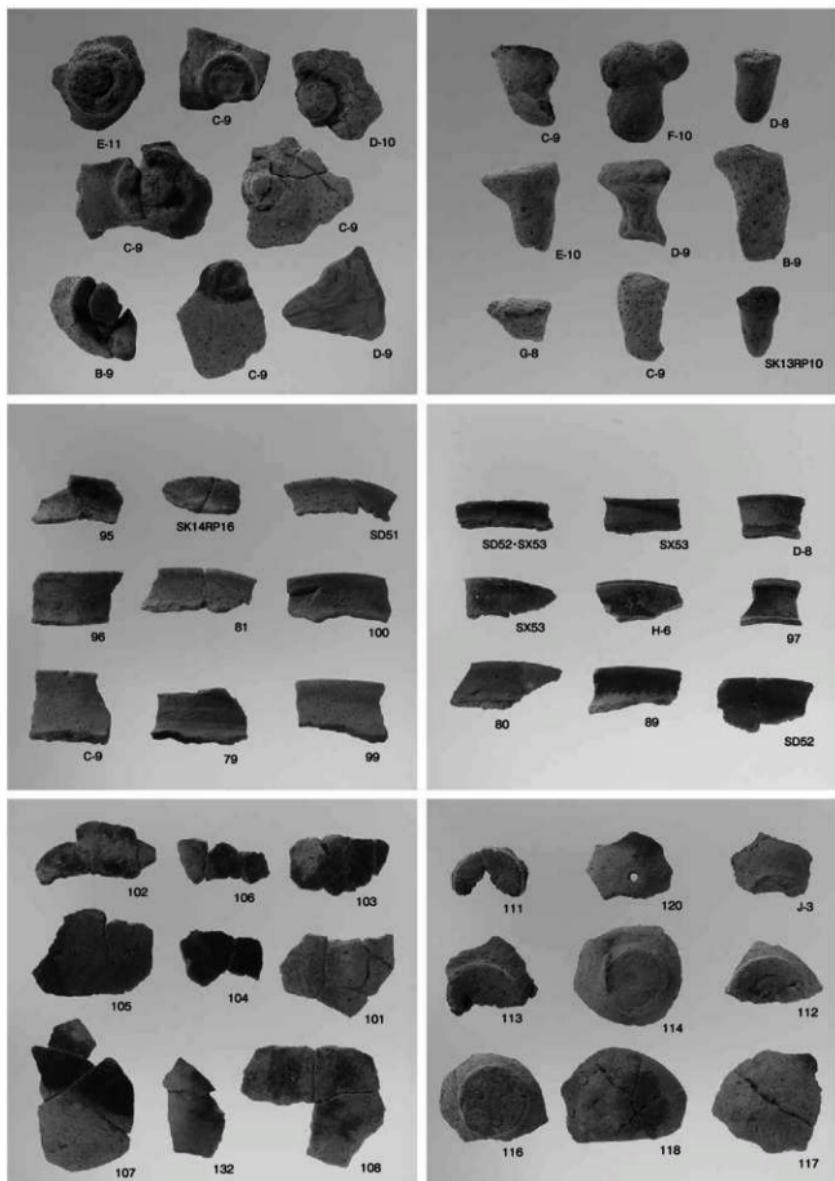


68

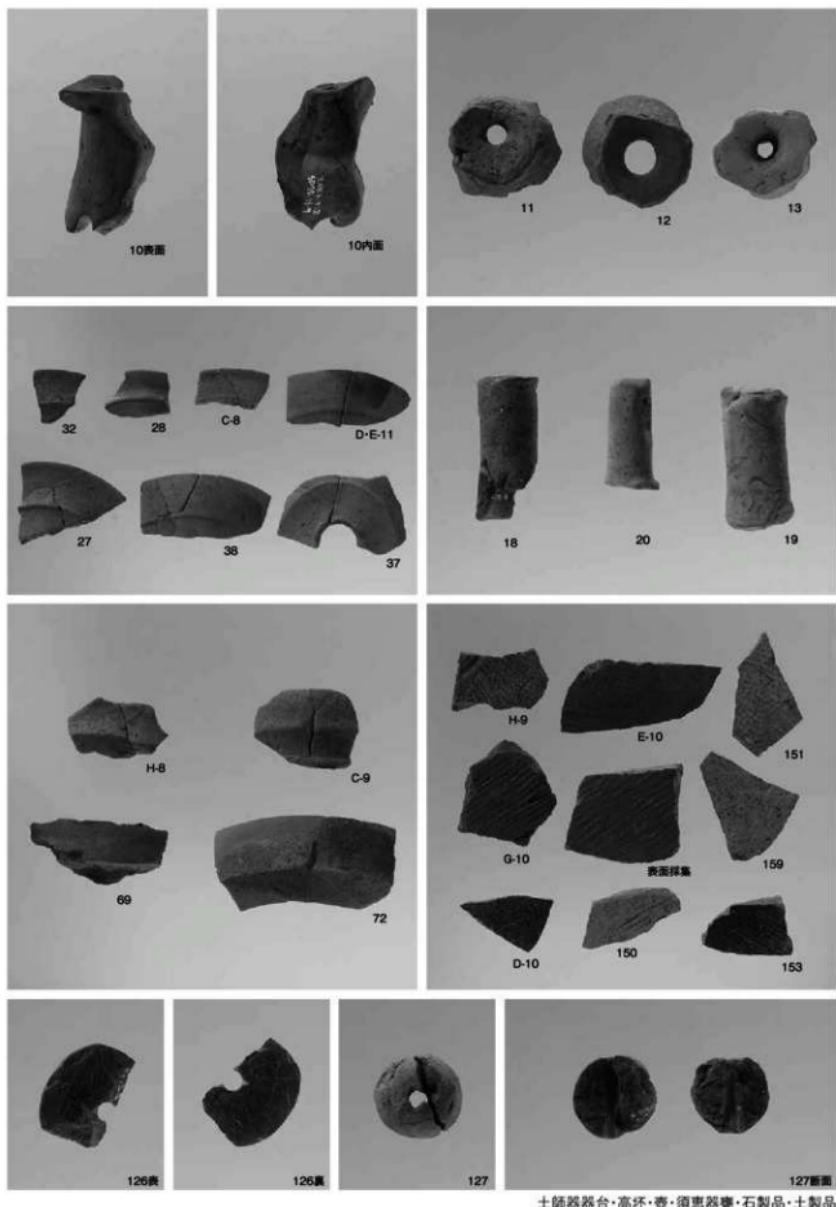
土器



土器高环·甕(1)



土器高坏-甕(2)



土師器器台・高环・壺・須恵器壺・石製品・土製品



128



129



130



131



134



135



136



141



A-11

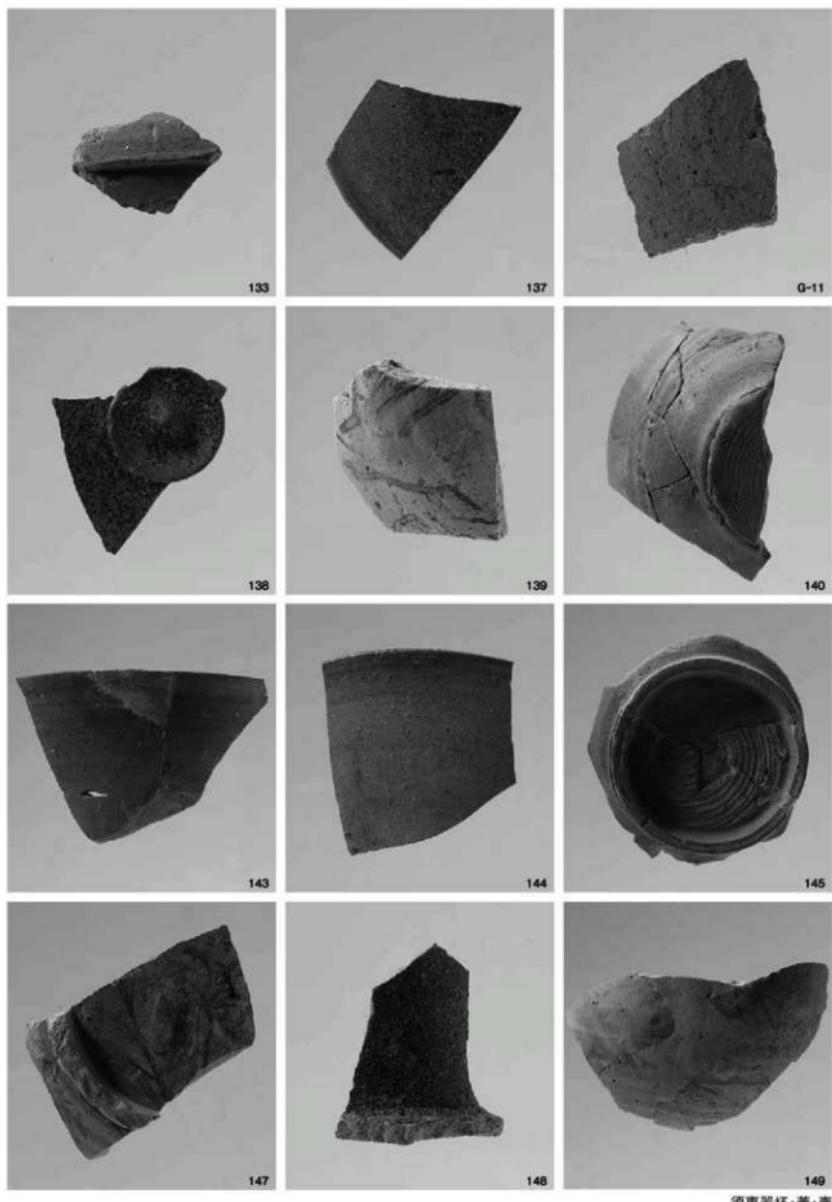


B-11

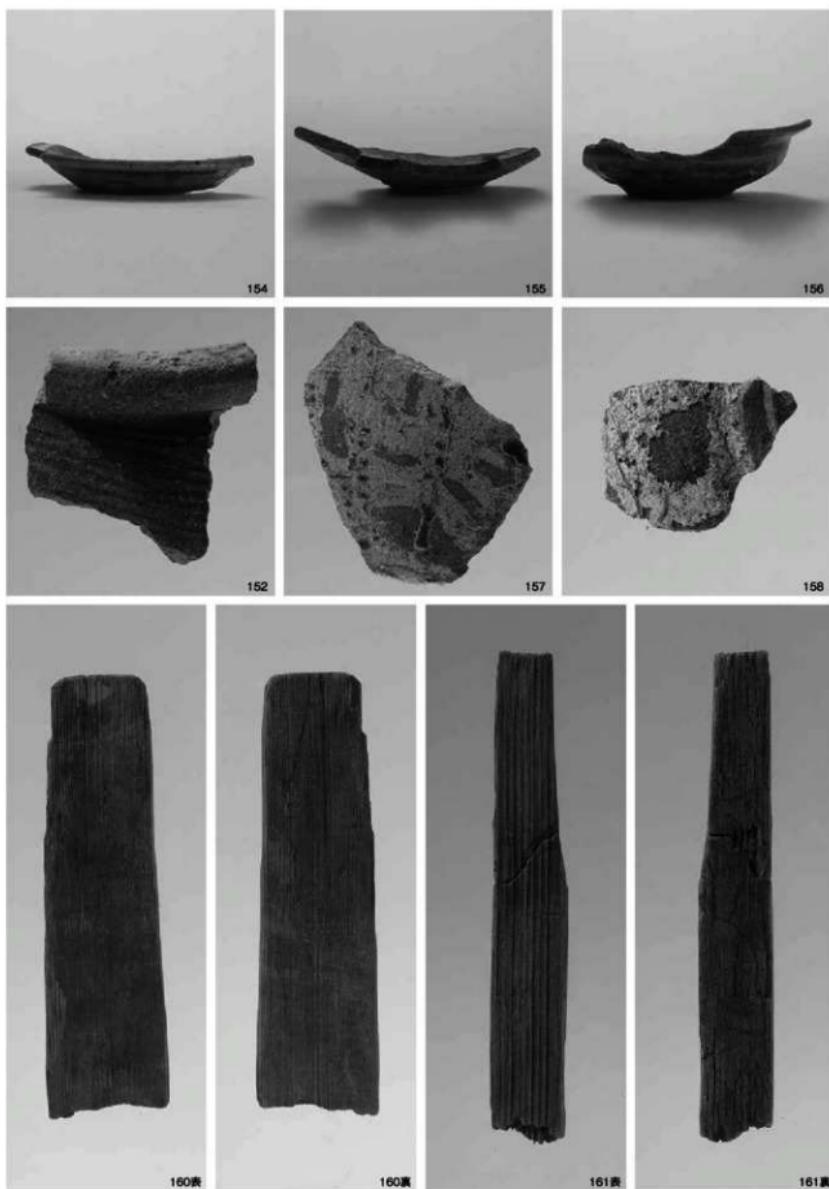


C-11

須恵器坏・蓋・甕



須恵器壊・蓋・壺



陶器・木製品

報告書抄録

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 170 集

玉作1遺跡第1～3次発掘調査報告書

2009 年 3 月 31 日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター
〒 999-3161 山形県上山市弁天二丁目 15 番 1 号
電話 023-672-5301

印刷 株式会社アサヒ印刷
〒 990-2251 山形市立谷川二丁目 486-14
電話 023-686-4331

